

平成 29 年度
交通安全指導者養成講座運営支援業務
事業報告書



内閣府

平成 30 年 2 月

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

目次

1. 講座概要	1
2. 日程表	3
3. 講義概要	5
●開講式・主催者挨拶	5
金子 健(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付交通安全対策担当 参事官)	
●講義「交通安全指導における効果的な話し方」	7
吉野 美智(株式会社ビジネスファーム 取締役)	
●講義「紙芝居の演じ方」	16
おの いづみ(イラストレーター)	
●講義「いきいき運転講座」	20
池田 佳代(株式会社コンセプトン 代表取締役)	
●講義「高齢運転者に関する講座」	25
野崎 美仁(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付交通安全企画第一担当 参事官補佐)	
●講義「交通安全教育デモンストレーション」	27
警視庁交通総務課交通安全教育指導係	
●グループ討議結果発表	31
●事例発表	40
●講義「自転車の事故防止のために」	46
石井 征之(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 主幹)	
●閉講式・主催者挨拶	51
和田 昭夫(内閣府 大臣官房審議官)	
4. アンケート集計結果	53

1. 講座概要

◆目的

本事業は、地域住民の交通安全意識の向上、交通安全思想の普及・浸透及び交通事故防止のための街頭活動、交通安全教育等を行っている交通指導員(シルバーリーダーを含む。)及びこれら交通指導員を指導育成する立場にある者(以下「交通指導員等」という。)に対し、交通安全教育に関する基礎的理論及びその実践的手法に関する知識・技能を習得させ、指導的役割を担う者を養成することにより、その効果的な活動を促進し、安全で快適な交通社会を形成することを目的として実施する。

◆期間

平成 29 年 12 月 11 日(月)～13 日(水)

◆会場

アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段北4-2-25)

《アクセス》

- ・JR 中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅
- ・地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(1または A1 出口)
- ・地下鉄新宿線 市ヶ谷駅(A1 または A4 出口)

◆受講者

【交通指導員】

都道府県又は市区町村の長等から委嘱を受け、交通安全を目的として街頭活動、交通安全教育、広報啓発活動に従事している交通ボランティア(高齢者交通ボランティアであるシルバーリーダーを含む。)

【交通指導員を指導育成する立場にある者】

交通指導員の指導者及び都道府県又は市区町村の交通安全対策主管課の職員

◆受講者数

111名

◆配布資料

No	資料名
1	講座のしおり
2	「交通安全指導における効果的な話し方」講義資料
3	「紙芝居の演じ方」講義資料
4	「いきいき運転講座」ご案内
5	「いきいき運転講座」講義資料
6	「いきいき運転講座」アンケート
7	「いきいき運転講座」新聞記事
8	「いきいき運転講座」DVD
9	「いきいき運転講座」教材
10	「高齢運転者に関する講座」講義資料
11	「交通安全教育デモンストレーション」講義資料
12	事例発表資料
13	「自転車の事故防止のために」講義資料
14	アンケート(兼 講師への質問用紙)
15	みんなのサイクル ルールブック(横浜市)

2. 日程表

【1日目／12月11日(月)】* 敬称略

時間	プログラム	会場
12:30～13:15	受付	霧島(6F)
13:15～13:30	オリエンテーション	霧島(6F)
13:30～13:45	開講式・主催者挨拶 内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全対策担当 参事官 金子 健	霧島(6F)
13:45～15:45	講義「交通安全指導における効果的な話し方」 株式会社ビジネスファーム 取締役 吉野 美智	霧島(6F)
15:45～16:00	休憩	
16:00～17:00	講義「紙芝居の演じ方」 イラストレーター おの いづみ	霧島(6F)

【2日目／12月12日(火)】* 敬称略

時間	プログラム	会場
09:00～09:30	受付	霧島(6F)
09:30～11:30	グループ討議	霧島(6F) 鳳凰(西)(4F) 鳳凰(東)(4F)
11:30～11:45	討議結果とりまとめ	飛鳥(4F)
11:45～13:00	休憩	
13:00～14:50	講義「いきいき運転講座」 株式会社コンセプトン 代表取締役 池田 佳代	霧島(6F)
14:50～15:00	休憩	
15:00～15:15	講義「高齢運転者に関する講座」 内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全企画第一担当 参事官補佐 野崎 美仁	霧島(6F)
15:15～15:25	休憩	
15:25～16:05	講義「交通安全教育デモンストレーション」 警視庁 交通総務課 交通安全教育指導係	霧島(6F)
16:05～16:15	休憩	
16:15～17:00	グループ討議結果発表・質疑応答	

【3日目／12月13日(水)】* 敬称略

時間	プログラム	会場
09:00～09:30	受付	霧島(6F)
09:30～10:15	事例発表	霧島(6F)
10:15～10:30	休憩	
10:30～11:30	講義「自転車の事故防止のために」 一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之	霧島(6F)
11:30～11:45	休憩	
11:45～11:55	閉講式・主催者挨拶 内閣府 大臣官房審議官 和田 昭夫	霧島(6F)
	修了証配布・アンケート回収(机上)・解散	

3. 講座概要

●開講式・主催者挨拶／12月11日(月)13:30～13:45

金子 健

(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付
交通安全対策担当 参事官)



皆さんこんにちは。ただいま紹介いただきました内閣府の交通安全担当参事官をしております金子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、今年も本当にたくさんの方にこの講習会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。この師走の忙しい時期に3日間、時間を割いていただけるということ、例年のことながら本当に有り難いことだと考えています。また、日本の交通安全を日々支えてくださっているのは、正にここにお集まりの皆さん方でございます。

昨年の我が国の交通事故の死者数は、御存じの通り3904人と、昭和24年以来、67年ぶりに4000人を切ったということでございます。昭和40年代、いわゆる交通戦争といわれた時代があり、その頃には一番多いときで1万6000人の方が交通事故で命を落としていらっしゃる。それからすると、実に4分の1にまで減少したということであります。

さらに今年は、昨年を上回るペースでといたしますか、下回るといいますでしょうか、さらに記録を更新できるのではないかとペースで今、死者数は推移をしております、ひよつとするとデータがある中では交通事故の死者数が一番少ない年になるのかもしれませんが、ここまでこれましたのは、もちろん国も、地方公共団体も、関係団体も非常に努力はしましたけれども、やはり全国津々浦々で、お子さんあるいは高齢者の事故の防止に日夜努力してこられたボランティアの皆さん、指導員の皆さんのお力なしには考えられないわけであります。本当に心から御礼を申し上げます。

しかしながら、今でも4000人近い方が悲惨な交通事故で命を落としているという現実には変わりはありません。やはりこれからもそういった方々を1人でも少なく、そして究極的にはゼロにすることを目指して、交通安全を進めていかなければいけないわけですし、そのためには、行政だけではなく、あるいは関係団体だけではなく、民間の企業さんとして、ボランティア指導員、様々な形で交通安全に携わってくださっている皆さん、全部の力を結集していかなければならないと思います。

やはり、お子さんの事故が相変わらず多いわけでありまして、特に小学校に通い始める7歳のお子さんの事故が非常に多いということが、最近特に認識されるようになっていきます。また、全死者数の半数以上が高齢者の方であり、やはり日本が本格的に高齢社会になってきている中で、やはり高齢者の事故というのは、何としても減らさなければいけないと。さらに、これまで高齢者の事故というのはどちらかといえば、交通でいう第二当事者というのでしょうか、被害に遭う方のことがどうしても取り上げられがちでしたし、数としても多いのですけれども、昨年来、逆に運転する側の高齢者の方、ドライバーとして引き起こす事故が、社会的にも非常に大きな関心事項といたしますか、取り上げられているところです。この点については政府としても、昨年秋から、関係省庁挙げて検討を進めまして、この6月末に、その

対策全般を取りまとめたところです。

よくテレビとかでは免許の問題といいますか、認知症の方の免許をどうするかという、3月の道交法改正の内容ですとか、あるいは今後、高齢者の免許をどうしていくのか、例えば制限付きの免許とするべきではないかとか、そういう話がメディア的には非常に取り上げられていますが、実はそれだけではなく、政府としては、そういった高齢者の方の足の確保をどうするかということも、非常に大事な問題として取り組んできております。やはり生活に車が不可欠な地域は多いわけですので、そういう地域の高齢者が車を運転しなくても暮らしていけるような、そういう体制を社会全体で作っていくということも、鋭意検討して対策を進めております。また、運転される高齢者の方には是非安全な車に乗っていただきたい。自動ブレーキですとか、踏み間違えをしたときに加速しないような装置が付いている車には是非乗っていただきたいということで、そういう車の民間における開発の促進、そしてよく知っていただくためのPR、様々な活動もしてきております。そういった内容については、今回は2日目の午後に私どもの方から説明させていただきます。

いずれにしても、様々な形で交通安全のための努力は必要ですし、その中でも、ここにお集まりの皆様のお力添えは本当に重要であると考えております。

この講座も長年やっておりますが、交通安全に携わる皆さんの基礎的なスキルから応用・実践的な方法論まで、様々なことを3日間で学んでいただくというプログラムになっています。それぞれ皆さん、地域で活動されている中で、様々な課題があろうかと思っております。その課題の解決に少しでもこの講座が役に立てば幸いですし、何らかのものを是非、地域にお持ち帰りいただければと思います。

また、あわせて、こういう全国から皆様がお集まりの場ですので、皆様方の間の横のネットワークも、この機会に是非作っていただければ幸いです。

3日間、この講座が有意義なものになることを心から祈念して、私の御挨拶とします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

●講義「交通安全指導における効果的な話し方」／12月11日(月)13:45～15:45

吉野 美智(株式会社ビジネスファーム 取締役)



配布資料:

「交通安全指導における効果的な話し方」講義資料

本講義の目標:

私たちの話し方、聞き方に対し人はどのように行動するかを考える。
被害者・加害者にならないための啓発活動。

【交通安全指導者の使命】

1. 交通安全指導者は「規範を守る道徳的な人間としてのお手本」

- (1) 交通安全指導の「目的」は何か？
 - ・尊い命を守り、安心、安全な街づくりのため。
- (2) 交通安全指導の「目標」は何か？
 - ・交通ルール、マナーを守る態度を育成する。
 - ・安全に道路を通行するための知識、技術、技能を身につける。

2. 交通安全指導を通じて、地域住民の自己肯定感を高める

- (1) 自己肯定感(自分の存在意識を認める)を育てるためには「地域の協力」が大切だと思われる。
幼いうち(4～5才くらい)に人と接して皆の気持ち(特にルール、マナー、エチケットなど)を伝えることや交流により将来の人柄を育てていく。
- (2) 自己肯定感の低い人には、話しかけてほめてあげるとよい。小さな子どもにはハグも有効。

【指導者に求められる基本的事項】

1. 心構え

- (1) 聴いてもらうという姿勢が大切。
- (2) 自分を磨くこと。教えることで身につくこともある。
指導する立場になることが大切。
- (3) 話し方の3原則(明朗・正確・肯定表現)を使う。「でも」、「けど」等の否定表現はできるだけ使わないようにする。
- (4) 目的と目標を達成するために、熱意を持ち、自信ある態度で指導にあたる。
自信は、新しい事などを積極的に取り入れ、知識、経験を積むことにより、生まれるものである。
技能は先輩方に教わるとよい。
- (5) 指導者の「タスク(課業)」を理解する。タスクは、「すべきこと、なすべきこと」。
 - ・自分のタスクを明確にすることで教育技法と指導技術の選択・決定ができる。

2. 求められる能力

(1) 分析力と観察力

①地域住民(幼児・学童・生徒・保護者・年配者等)の話をよく聴き、言わんとすることを早く理解する。→聴くべきことを具体的に、よく聴いてあげること。

②話の要点を正確に掴み、まとめること。

(2) 身体的…健康、特に視力、聴力、音声明瞭

(3) 人柄…人間的魅力(指導を受ける方々への影響力)

・指導者がきちんとしているということ。

・どうしたら人柄がよいと通じるか…

①時間と約束を守ること②誠実・明朗・公平であること③嘘やごまかしがいないこと。

・指導者の一言は、人の一生を左右する…誠実に、正直に伝えること。

【心温まる笑顔で「相手の心に残る指導」を！】

私たちは、はじめに熱心に指導すると相手に対して顔が陰しくなりがちなので、ふっと気づいたら口角を上げるなど気をつけて表情を和らげるよう心掛ける。

【指導者に求められる実践スキル】

1. テクニックを学ぶ前に…交通安全指導現場での心得(再確認)

(1) 幼児・学童に対して

①幼児・学童に対する心得

・分別のある賢い子どもに育てるために幼児語を使わず、ひとりの個として丁寧な言葉で接する。

②質問話法の活用

・「…は、あるかな?(ありますか?)」などと問いかける。

(2) 学生・高齢者に対して

①「命令形」より「依頼形」

・特に、高齢者に対しては、「～して下さい」ではなく、「～していただけますか」という言い方にする。

②相手の言葉を正す必要はない

・相手の話を復唱する時は、相手が使った言葉で繰り返す。(ミラーリング)

・話しのテンポ、感情のテンポを相手に合わせる。(ペーシング)

③相互関係の一線を越えない

・言葉自体の勘違いを生まないためにも、丁寧な言葉で対話する。

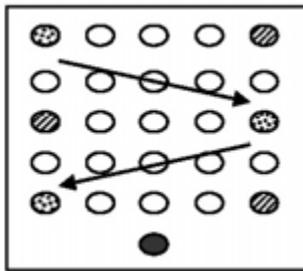
④話し方に『情』を込める

・人は、ものの言い方に影響される。音調表現に注意する。

・囁き(ウisper)効果なども使用するとよい。(目の前の相手との距離を近くする)

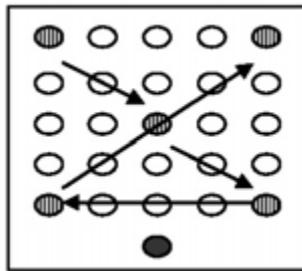
2. 基本動作としての視点法

(1)3点法



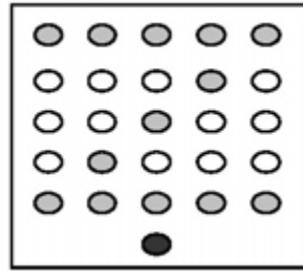
受講者数
少人数から30名位

(2)5点法



受講者数
30名～80名位

(3)Z視点法



受講者数
少人数から多数

3. 自分の印象を管理する

◎好意の統計(アルバート・メラビアン)

Totalliking	=	Facialliking	+	Vocalliking	+	Verballiking
(100%)		(55%)		(38%)		(7%)
		・笑顔や表情		・声の調子		・言葉
		・身嗜み		・話し方等		・話の内容等
		・所作等				

4. 相手を尊重する基本動作

- ・挨拶の仕方…語先後礼(言葉が先、後から動作)が丁寧に伝わる。
- ・視線…(対面時)アイコンタクト→言葉→おじぎ (開場時)相手が多い場合は一度見回してから
- ・手の位置、立ち方、立ち位置。

5. 美しい所作

- ・相手の目を見る、言葉を添える、指先を揃える(案内をする時など)、メリハリをつける。
- ・子どもたちの指導には小さな所作などを楽しく指導するのもよい。

6. きく力…“聴く・訊く・聞く”

①傾聴術…相手の真意を引き出すために話をさせる技術。論理的な話合いができ、意見を合致させることができる。・相手の目を見る、うなづく、相槌をうつ、メモをとる(必ず了解を得ること)、質問する(訊く)・復唱する(～でよろしいでしょうかの確認)

②傾聴技法

- ・再陳述(オウム返し)…ミラーリング
- ・感情の反射…ペーシング
- ・開かれた質問(オープンクエスチョンズ)…何からでもいいから話す→色々な話ができる

- ・閉ざされた質問(クローズクエスチョンズ)・・・緊急な場合(白か黒か?イエスかノーか?)
- ・選択質問・・・三択、四択など「どれにしますか?」での質問

7. 話す力“メッセージの伝え方”

- (1) 最も言いたいこと(主題)を先に述べる。
- (2) 共通言語を用いる・・・基本は中学生でも分かる言葉を基準にする。難しい話をしない。
私たちの場合は幼児にも分かる話仕方も必要。
- (3) 筋道を立てて話す(ナンバリング方式)・・・例えば、「次に」、「最後に」などを付けてわかりやすくする。
- (4) 短文で話す・・・言いきりが記憶に残る。あまり接続詞を入れない。

8. 良い点を褒め(認め)ながら指導する

- (1) 「褒める・叱る」と「ストローク(存在認知行動)」
- (2) 「条件付肯定」と「無条件肯定」
- (3) 「条件付否定」と「無条件否定」
・無条件肯定か条件付肯定(育成面)が相手に心地よい。無条件否定はしない。

【交通安全指導等の事前準備】

1. 話材(お話をする時の母体となるもの)を探す

2. 主題(自分が最も言いたいこと)を明確にする

- ・主題を述べる時は、聞き手の記憶に残るよう、狭く絞って短く言い切る(20～30文字以内で)

 - (1) 主題は、狭く絞って一番始めに述べる。(15秒)
 - (2) 話題(事実・実例・例話)をありのままに述べる。(2分20秒)
 - (3) 主題をもう一度繰り返して結ぶ(15秒)・・・記憶に残る

3. 説得力が増す“5つの要素”

* 研修の中でお伝えしましたが・・・

- (1) 定量的に(数字で伝える)
- (2) 実際の事例で伝える。
- (3) ネガティブをポジティブに転換して伝える。
- (4) 提案として伝える。
- (5) ノンバーバル コミュニケーション(物言わぬコミュニケーション)を大切にして伝える。

4. 交通安全指導等を受ける人は、どのような話しを聞きたがるのか

- ・その人(個人)にとって具体的な情報

5. 講義の組み立て方

- (1) 「なぜ、大切なのか」…例)衣類や持ち物、あるいは自転車に反射材をつけることが、なぜ大切か？
- (2) 「なぜ、そうなるのか」…例)夜道暗い色の服を着ていると気付かれにくい。
- (3) 「では、どうするのか」…例)反射材を付けると運転者にもわかりやすい。
 - ・わかりやすく話すために組み立てること。問いかける際は肯定の質問をすると効果的である。

6. わかりやすく話すためのコツ＝例話を用いる

自分の言いたいことを他の物事に例えて、聴衆者にわかってもらう。話の重要な裏づけとして説得力があり、印象に残る。聞き手の興味を引きつける意味でも大切な役目を持っている。

7. コメントをする時の留意点

- (1) コメントの仕方
 - ・良い点を褒める
 - ・直す点、問題点を注意する…ストローク
 - ・励ましの言葉を贈る
- (2) 留意点
 - ・褒め過ぎはダメ
(意識過剰になり、次へのプレッシャーとなったり、こんなもんでいいやと思ってしまう)
 - ・コメントは短めに
 - ・全員同じくらいの時間で
 - ・温かい気持ちを忘れない(ミラーリング、ペーシングを有効に活用)

8. 思考整理術をマスターする

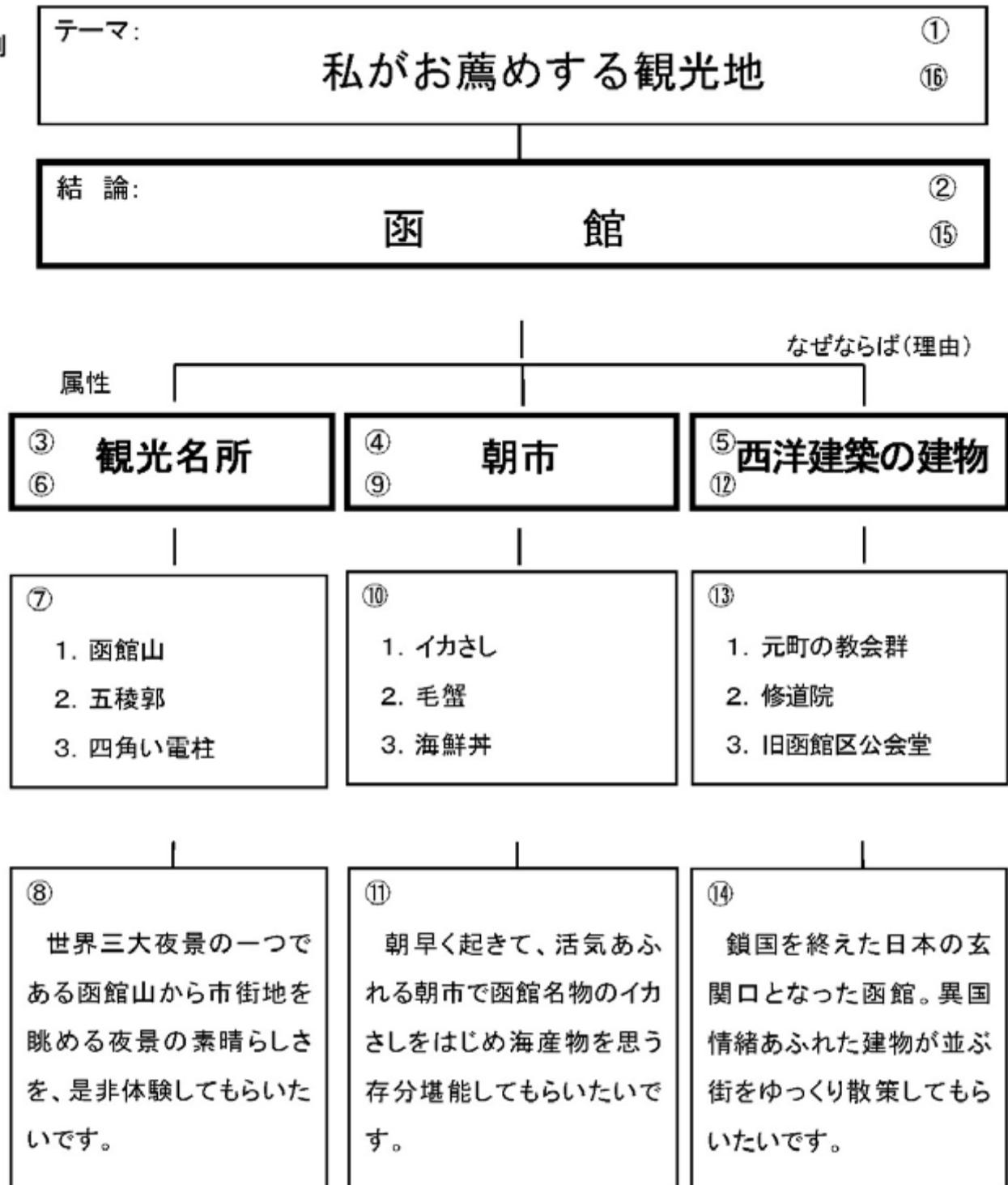
*ロジックツリー(論理の木)を用いたスピーチトレーニング

- ・この方法で進めていくと言いたいことが整理されキチンと繋がる。
- ・最初と最後は同じことばで繰り返す(テーマ)
- ・スピーチが聴き手にとって合理的で“なるほど”とその後の実践を後押しする。

【ポイント】

- (1) 文字量を揃える…簡潔明瞭な文章
- (2) 文体表現を整える
- (3) 異質な情報を混在させない…視点のズレ防止

例



9. 高齢者の交通安全意識を啓発する「交通安全5則」※岡山県

ま…待つ

み…見る

む…無理をしない

め…目立つ

も…もっと知る

10. 幼児の交通事故原因を踏まえた指導内容

前述【指導者に求められる実践スキル】

1. の(1)を参照ください

【交通安全指導等の実践】

1. 交通安全講習、イベントでの講話準備

- (1) 「交通安全講習、イベント等(状況・場面)」での目標を明確にする。
- (2) 参加者に何を伝え、どのような講話を行うのか? 「テーマ」を必ず設定する。
- (3) その後、主題を30文字以内でまとめ、話の展開を考える。
- (4) 生きた話をするための仕上げは「表現力」である。…どれだけみんなに興味を持ってもらえるのか?

2. 講話の実践

- ・主題は短く詰めて短くわかりやすくロジックツリーを使って作る。最も伝えたいことをナンバリング方式でまとめる。

【質問】

講義中には、出席者をあきさせない手法がありますか。

【回答】

1. 長い講義をしないこと(ひとつの区切りが 15 分以内)
2. グループ形式の講義(5人ほど)で、各ポイントで1人感想を出してもらうこと
3. グループでは、それぞれ役割を持ってもらうこと(リーダー、サブリーダー<サブリーダーは時間管理と軌道修正がかり>、発表者、書記、発表内容を分かりやすくまとめる人)などで参加意識を高めること
4. 最近の出来事を例に出すこと
5. 教育ゲーム(なぜ挑戦させたかを明確にする)の実践
6. 長い休憩より短い休憩(5分でも)を何度か取ることなどがよいと思います。

【質問】

幼児向け教室で関係のない発言をする子がいる時、(ふざけているわけではなく)その子の発言の対応をすると進行が脱線すると思い、発言を拾い上げることはしませんが、目配せをすることで、無視していないよということは伝わりますか。(交通安全の話で「どろぼうが来たら…」という話をしたりする子がいます。)

【回答】

1. 幼い子ども達は、どのような研修でも自分の承認欲求があるので、「まったく異なる次元の話をしてくる」はよくあることです。「Aくん、後でちゃんと教えて、今は〇〇のお話を続けます」などと伝えます。
2. 度重なるようなときは、「Aくん、今、交通安全のお話をしているよ。Aくんのお話はちょっと交通安全のお話ではないと思う。「どろぼう」はいません」と真正面から向き合い言い切りの言葉と姿勢も大切です。

【質問】

幼児の交通教室で皆に向かって問いかけをすると、長く話をする子供が何人か出てきます。その話を上手に終わらせる方法はどうしたら良いですか。

【回答】

1. ストップウォッチの利用を勧めます。今のストップウォッチは、さまざまなものがあって、ピ、ピッだけでなく動物の鳴き声や、鳥の声など色々あります。幼い子どもには、区切りの合図が大切です。そして、話の途中でも修了させます。

結論:相手がどんなメンバーでも時間管理は、私たちにとって大切なポイントです。

【質問】

高齢者の方に対し、敬意を表し接するように心掛けていますが「指導」しなければならない場面においてどのような伝え方をすれば理解を示してもらえるのでしょうか?若い者から言われたくないという気持ちがあるのかなあとも思います。

【回答】

1. 高齢者には、講演会の最初にできるだけ穏やかに伝えることがあります。

「私は、若輩ですが専門家からのお伝え、国で決められている最新のルール(約束事)、推奨ごとなどをお話してまいります」、「ご存知のこともあると思います。また何か失礼なことがあれば、どうぞ注意してください」などを自己紹介の直後におっしゃっておくことをお勧めします。

2. 横文字はあまり使用しない、使用したら必ず和訳します。

3. 最後には「私の話をお聴きいただきありがとうございました」を忘れません。

結論: 私自身高齢者なので私の感覚でもあります。

【質問】

話すことがあまり得意ではないので視点法等活用していきたいと思います。話し方によって相手に全く違う印象を与えるのだということがよくわかりました。緊張せず先生のように堂々と話せるコツを教えてくださいたいです。

【回答】

1. 視点法についてご理解いただきありがとうございました。

<ここからは私のコツ?です>私もドキドキなのです。でも、皆さんに挨拶がすんで顔を上げたとき、できるだけ優しい目をしている人、うなずいてくれる人を探します。その人たちを頼りに少しずつ、その近くにいる人たちに目を広げていきます。

結論: 私を見てくれる人、聴いていてくれる人の輪を広げていきます。

【質問】

高齢者への指導を行う際、相互関係の一線を越えないというやり方が非常に難しいです。丁寧な言葉で話しつつ、親しみを込めるにはどのような立場で指導していけば良いか迷います。

【回答】

1. 丁寧な言葉遣いは大切です。しかしそれが“敬遠（敬って遠ざける）”になっては困ります。

私は年配者への敬語は基本的に丁寧語(です。ます。)でよいと思います。

2. 親しみについては、身近に起こっている(新聞や TV で見た)ことなどをお伝えすることがお勧めです。それも TV なら NHK、新聞も5大紙での見聞きの内容を勧めます。高齢者にはメディア力も大きく影響するからです。

3. 私たちは何事においても真面目に、真剣に話しをしていくと、キツイ顔、厳しい顔になっていきます。

15分に1度ぐらい、意識して表情を和らげることです。

4. できれば、演壇を下りて受講者のそばに行き、話しかける、1人ひとりの声を聴くなども効果的です。

(相互関係の一線を越えることとはちがいます)

なぜ必要かというと、挙手はできないけれど講師がそばに来てくれると話す人はたくさんいます。その話の中に講師が是非伝えたいこと、大切なことがたくさん眠っています。

●講義「紙芝居の演じ方」／12月11日(月)16:00～17:00

おの づみ(イラストレーター)

配布資料:「紙芝居の演じ方」講義資料



- 紙芝居は1対多数に対して演じ、皆で何が危険か、どこで感動したのかなどを話し合うことができるため、幼児～小学校中学年くらいまでの交通安全教育にとっても有効な教材である。
- 紙芝居を演じる前に必ず下読みをすることが大切。繰り返し下読みをすることによってキャラクターを設定し、登場人物の気持ちをつかむこと。(下読みをする際はト書きを参考にするとおのずと主人公の気持ちになれる)

紙芝居は一人でいくつものキャラクターを演じるため、キャラクターを区別できるよう、以下の表現方法を学んでいく。

【発声の基本】

・お腹から声を出す方法

マイクを当てにせず腹式呼吸でお腹から声を出す。

背筋を伸ばし、お腹に空気を入れて、お腹から声を出す。また、滑舌を良くするために、「あ・え・い・う・え・お・あ・お」「か・け・き・く・け・こ・か・こ」…、という発声練習をする。口の開け方、形を意識して行う。

・枠が無い場合の演じ手の立ち位置は紙芝居から左側、やや斜め後ろ。

【間の取り方】

・短い間(息つぎの間)の取り方。

・声の使い分け(ドレミファソラシドの音階)。

【喜怒哀楽の表現の仕方】

喜＝明るく、楽しく笑う

怒＝低めの声で口をとがらす

哀＝悲しみの表現、表情は抑えめにし、口は広げて開けない、泣く、泣きじゃくる、すすり泣く

楽＝明るい声でやや早口に

・喜怒哀楽と音階を使い分けても声色の幅が広がる。

【演技の基本『声』について】

- ・上手なセリフの言い方。
- ・セリフによって登場人物の年齢、性別、性格、生活環境が分かるようになってくるので、聴いている人がそれを理解するように演じる。
- ・声色(声帯模写、物まね)は使わず、音階(ドレミファソラシド)、言葉尻、口の開け方、高低、緩急、強弱、明暗で、登場人物の声を使い分けすることができる。
- ・セリフでは声の喜怒哀楽に、「明暗高低」を付け加えると、8種類の声のバリエーションを作ることができる。
- ・主役はあくまで紙芝居の中の主人公なので、演者はなるべく目立たないよう心がける。
- ・ナレーション(語る)も、場面に合った使い分けができるように。(高低緩急強弱明暗)
- ・擬音を表現する際に太鼓などを使用すると、子供達が道具に集中してしまうことがあるので、できるだけ、道具に頼らずに擬音は口で表現した方が良い。

【演技の基本『間』について】

- ・息つぎの間
⇒場面の状況が変わるところで、息つぎをする。
- ・話変わりましたの間
⇒場面転換や状況が変わる時取る間。例えば、夜から朝への場面転換時に、3～4秒ほどの間を取る。
- ・ドラマを生かす間の取り方
⇒観客に期待をさせる「間」、登場人物の気持ちになって思いをためる「間」、状況を納得させる「間」など色々な「間」の取り方があるが、これらの場合の間は、何秒空けなければならない、という決まりはないので、下読みの際に自分なりに考えて間を取る。

【演技の基本『ぬく』について】

- ・紙芝居は真っすぐ平らに抜く。
- ・途中まで抜いて止める。
⇒限られた枚数の中で物語の幅が広がる。クイズ形式等にして枚数を多く感じさせることができる。
- ・サッと抜く、早く抜く。
⇒緊張感がある場面や急いでいる場面で使用する。
- ・ゆっくり抜く、静かに抜く、抜きながら話す。
⇒余韻を残し考えてもらう時間ができる。
- ・画面を動かす。
⇒場面によって上下前後に紙芝居を揺らすと風に吹かれている様子や歩いている場面など臨場感を表現できる。

【発生の練習】

- ・男性が女性の声を、女性が男性の声を練習。
- ・ドレミファソラシドの音階で練習をする。

【紙芝居を実演】

・紙芝居の大筋を変えない限り、自分の県の方言で演じるとより親しみ易くなる。

【紙芝居を演じる際の要点】

- ・締めを楽しくする。何を守ってもらいたいかを覚えてもらうために歌を入れることもある。
- ・子供達が落ち着かない時(開始時や、疲れた時など)には、お遊戯などを取り入れて興味を持ってもらうことも有効。

【紙芝居の作り方】

- ・起承転結を決めて偶数枚で構成。(例:10枚の場合は、人物紹介2枚、テーマを決めてのスタート3枚、テーマ3枚、結び2枚の構成になる)
- ・テーマを決め、ストーリーを作る。「死」を内容に入れないようにする。
- ・走行している車両を描く場合は、紙芝居を抜く左側に向けて描くようにする。

(例) 10枚の場合 「起」 = 人物紹介と物語の始まり 2枚
「承」 = テーマに沿って「転」に至るまでの物語 3枚
「転」 = 交通事故にあいそうなり、助かる展開 3枚
「結」 = 事故にあいそうになった事の反省
交通ルールを守ることの誓い 等 2枚

===== 質問・回答・感想 =====

【質問】

先生の絵はおたより等に使用してもよろしいでしょうか？

【回答】

使用して頂いても大丈夫ですが、その際に絵の片隅に(絵:おのいづみ)と入れて、お便り等に活用して下さい。

【質問】

紙芝居の声の出し方、登場人物になりきる方法。難しい訓練、トレーニングはどうすれば良いでしょうか。

【回答】

特に難しい訓練は有りません。紙芝居の物語を下読みして、登場人物がどんな性格か、自分なりに理解する事によって、あわてん坊、利かん坊、オッチョコチョイ、優しい子等、登場人物にあったセリフの言い方が出来ると思います。

【質問】

紙芝居の枠がないので後ろで座って行きます。それでも大丈夫なのでしょうか？

【回答】

紙芝居の後ろで演じて良いのですが、見ている子供達の反応に合わせて、演じるテンポを変えて居るので(子供が驚いている時や悲しみの場面は余韻を持って抜く等)出来ましたら、子供達の反応を見るためにも少し左手で演じてみて下さい。

【質問】

紙芝居がほしい場合はどうしたらいいですか？

【回答】

紙芝居が欲しい場合は、インターネットで紙芝居を検索してみると、紙芝居専門の出版社や紙芝居購入等出て来ます。配布出来る紙芝居が現在無くて、申し訳ありません。

【質問】

「あえいうえおあお…」の口の体操はどれくらいすれば滑舌がよくなるのでしょうか。

【回答】

滑舌の良くなる口の体操は、どの位と言う時間では無く、あくまで自分の練習なので、人前で話す又は紙芝居を演じる前に練習する、口の準備体操と言う考え方で大丈夫です。

●講義「いきいき運転講座」／12月12日(火)13:00～14:50

池田 佳代(株式会社コンセプト 代表取締役)



配布資料:

「いきいき運転講座」講義資料

- ・DVD「いきいき運転講座」マニュアル
- ・すすめ方の手引き、指導者用冊子
- ・交通脳トレ
- ・交通安全トレーニング用ワークシート
- ・活動好事例
- ・いきいき運転講座の効果(記事)

【「いきいき運転講座」の考え方と特徴】

「いきいき運転講座」とは

- ・脳を元気にして交通安全力を高めることを目的としている。
- ・年々高齢ドライバーの事故比率が上がっているが、この講座は運転を必要とする高齢ドライバーに健康で安全に運転を続けていただくために作ったプログラムです。
- ・交通安全、心理学、脳科学の専門家で作るチームを作り、ディスカッションをしながら開発を行った。

受講者数は2008年8月より約23万人にのぼり、90%の受講者(主催者)から良かったという反応があった。

受講者からは「楽しく勉強できるから身に付く」「話し合ったことは忘れない」「楽しくて時間がたつのが速い」などの声があり、交通安全担当者の方からは「皆に考えさせ、発表させる教室は新鮮でよい」「話し合いを通して、高齢者の意識が変わってくる」「対話しながら問題点に気づかせるこれまでにない講座」という声があった。

警察庁高齢運転者交通事故防止対策に対する有識者会議において、交通安全教育として大変評価された。

「いきいき運転講座」の考え方

①コミュニケーション力を高めながら、いきいき度をアップする。

監修者の鈴木春男先生(千葉大学名誉教授)や川島隆太先生(東北大学教授)によると、身近に話相手がいる活発な方ほど脳機能の衰えが少なく、安全意识も高いため事故が少ないと言われている。

②自分で行動を変化させ交通安全力をアップさせる。

「いきいき運転講座」では上から教え込むのではなく自分で考え、気づきの学習を目指し、交通安全力アップを行っている。コーチング、ミラーリングといった教育手法を取り入れている。

「いきいき運転講座」の特徴

特徴1:小グループ学習などを通してよい仲間づくりをし、活動的な暮らしをすすめることで安全に行動することができる。

特徴2:話し合いを中心に進めている。問題点を自分たちで解決することで行動を変化させる。

特徴3:交通脳トレや話し合いで、脳機能を高めながら交通安全を学習できる。

特徴4:ドライバー、助手席、歩行者、自転車等のそれぞれの立場で話し合いをするため、運転免許を持っていない方でも参加ができる。お互いの意見を出せるので、地域の交通安全活動にも役立つと思われる。

例)高齢ドライバーの特徴、事故時の違反について。

信号のない交差点での安全不確認や、一時不停止の違反が多く、標識の意味は80%の人が理解しているが実際に行動をチェックすると正しい行動がとれる人はわずか15%しかいなかった。

知識はあるが正しく行動することができないので、現実を知らせて、自分が考えていることと現実との距離を縮めることにより、自分の行動を考え、変えさせることが重要なポイントとなる。

【「いきいき運転講座」体験】

1. 「いきいき運転講座」の流れ

- (1) 脳の機能を高める「交通脳トレ」1日分、2問を実施。
- (2) 話し合いながら答えを出す「交通安全トレーニング(グループ学習)」。ワークシートを活用し、グループディスカッションを行う。質問は5つから8つくらいで、答える中で解決策が見つかるように組み立てられている。グループごとに気づく内容が違うので、お互い発表しあうことで知識が広がる。

2. ワークシート「運転の自己評価」を使った交通安全トレーニング

- (1) 四輪車に乗って、一時停止標識と停止線のある細い道から2車線道路に出る際に、きちんと止まって、安全確認をしているか100点満点で自己評価する。
- (2) どのようにすれば安全に通過できるかグループディスカッションを行う。(班を作り、一人一言ずつ意見を述べ、班長が班の意見としてまとめる)
- (3) ビデオを見て、停止線で止まった車の数を数える。
- (4) ビデオを見てどう思ったか、どんな感想を持ったかのディスカッションを行う。(自動車、自転車、歩行者等のお互いの立場等でも行う)
- (5) ビデオの解説編を見て、なぜドライバーは脇道から通りに入る際に一時停止をしないのかについてディスカッションを行う。
- (6) もう一度、運転の自己評価を行い、映像を見たり、ディスカッションを行った後の自己評価に変化があったかどうか確認する。

3. 進め方のポイント

- (1) 普段の運転を振り返り、講座の前後に100点満点で自己評価を行い、グループディスカッションにより前後での点数の変化について考えることで、短時間に教育効果をはかれる。
- (2) 正解と現実を比較する。いきなりビデオを見せないことがポイントになる。ビデオを見せる前に正しい行動を皆できちんと考えておくことで、現実の行動がいかに不安全であるかが良く分かる。
- (3) ビデオで人の振りを見て、我が振り直す。
- (4) 違う意見、共感する意見の中から発見があるため学ぶことができる。

「いきいき運転講座」には、他に「いきいき運転・いきいき生活」「危険予知トレーニング」「ヒヤリ体験を生かす」の3種の交通安全トレーニングがあり、「交通脳トレ」と組み合わせて実施できる。

【「いきいき運転講座」の効果】

70歳以上のドライバー180人に効果測定を行ったところ、

- ・「交通脳トレ」に関しては脳の機能の上昇が認められた。
- ・「交通安全トレーニング(グループ学習)」に関しては、自分の問題点に気づき、解決していく反省力の向上に効果が認められた。

「いきいき運転講座」指導者研修を受講された方への調査(2017年度)では、小グループディスカッションにより94.6%の方が気づきを促されたと回答、また、98.4%の方が「いきいき運転講座」のような高齢者主体の講習会を普及すべきと回答した。

話合いの効果として、

- ・自分の意見を言い、人の意見を聞く中で「気づき」や「発見」がある。
 - ・みんなで意見を出し合うことで指導者が教えたいと思う答えは必ず出て来る。みんなの意見を合わせると正解に近づいていくので、足りない場合のみ指導者が意見を補う。
 - ・自分で出した意見は忘れにくい。
- などがある。

活用事例

地域の高齢者対象の交通安全教室のほか、交通安全大学・市民講座(連続講座)、企業の社員教育、小学校・中学校でも活用されている。

【質問】

先生の講座を修了した際、涙があふれました。先生の講座はインターネットなどで配信されていますでしょうか？

【回答】

大変うれしいお言葉ありがとうございます。励みになります。インターネットでは配信されておりましたが、ぜひ地元の高齢者のみなさまにこの講座をお役立ていただければと思います。

【質問】

“いきいき運転講座”リーダー用教材がご当地仙台くもん学習療法センター、東北大川島教授のご協力があって作成されたことは知り誇らしく思いましたが、公文のサポーターを始めて4年になりますが初めて知りました。その内で高齢者の免許書替がストレスになっている事が言われていました。その辺はどのようにお考えでしょうか？

【回答】

運転免許更新を試験と考えられ、合格するための勉強法、認知テストへの対応法、さらにいきいき運転講座の教材が役に立つかなど、かなり緊張した思いでお問い合わせをいただきます。運転技術や運転に必要な身体の状態を確認するよい機会ですので、普段通りに運転されるとよいと緊張をほぐすようにお話ししています。

【質問】

約2時間の講義でも「あきさせない」手法を教えてください。又、心がけていることなどを教えてください。

【回答】

高齢者のみなさま向けには、1時間の講習をお勧めしています。

最初に打ち解けた雰囲気を作ることを大事にしています(短い自己紹介、趣味などをお話いただく)。交通脳トレも気分を盛り上げ、集中力を高めるのに役立ちます。

交通安全トレーニングは、グループディスカッションで進めていきます。ワークシートの質問に対し、全員の意見が出るよう、一人ワンポイントずつお話いただくこと(高齢者のみなさまは長く話しがち)。さらに、グループだけの話にと終わらせず、他のグループでどんな意見が出されたかを発表していただくようにしています。さまざまな意見がでることで、よりよい問題解決につながります。出された意見を尊重し、足りない部分を補足するようにしています。

ご自分の意見をいう、人の意見を聞く、そういうコミュニケーションとプロセスから、安全な交通行動を見つけていくことに講座の楽しさがあると考えています。

【質問】

一時停止自己採点について、講習後採点は低くなると思ったが、高くなった場合に今回は“そうですか”で次にいってしまったが、その場合についてどのような伝え方があるのか教えてください。

【回答】

自己採点后、ビデオを見たり、グループで話をしたりするなかで、ご自分が正しい方法で通過していると確認されたことは大変よいことですが、自信過剰にならないようにしましょうとお話しています。

【質問】

道路標識が多くありますが「止まれ」の標識があり道路上に「止まれ」と書かれているのに車は止まらないのはなぜか教えて下さい。

【回答】

いろいろな理由があると思いますが、環境、運転操作、心理など項目別に考えてみるとよいかと思います。講座では、参加者のみなさまにご自分の体験から意見を出していただくとよいと思います。

- ・環境: まわりに建物などがある場合、停止線から歩道、車道が見えない
- ・運転: 止まったつもり(実際にはスピードはゼロでない)
- ・心理: 何も通らないだろう、相手が止まってくれるだろう
急いでいたり、焦っていて、一時停止や安全確認を怠る
止まらなくてもゆっくり走ればいいたろう など

●講義「高齢運転者に関する講座」／12月12日(火)15:00～15:15

野崎 美仁

(内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付
交通安全企画第一担当 参事官補佐)



I 高齢者を取りまく現状

1 高齢化の進展

(1) 高齢化の進展

高齢者人口の割合(比率)→我が国では、急速に高齢化が進んでいる。

(2) 高齢の運転免許保有者の増加

高齢化に伴い75歳以上の運転保有者数が年々増加している。これからも増加する推計。
→高齢運転者に対する対策が喫緊の課題となっている。

2 高齢歩行者等の交通死亡事故の特徴

高齢歩行者等の死亡事故の発生状況

→高齢歩行者等の死者数は減少しているが、高齢者人口の増加などもあり、他の年齢に比べ減少幅が小さく、全死者数に占める割合は年々増加。第10次計画の目標達成のためには、高齢歩行者等の死者数を減らす必要がある。

3 高齢運転者による交通死亡事故の特徴

(1) 高齢運転者による死亡事故の発生状況

死亡事故件数自体はさほどの変化はないが、高齢者の事故比率は増えている。

また、免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は、おおむね75歳以上と75歳未満では倍以上の差がある。件数は横ばいであるが、今後高齢の免許保有者が増加することも踏まえ、対策が必要。

【事故の原因】

・高齢者は自損事故が多い。

・ハンドル・ブレーキ操作の間違え(特にブレーキの踏み間違え)が圧倒的に多い。

→身体機能の低下により若い頃と同じ運転がなかなか出来ない。高齢化が進む状況を踏まえると対策を考える必要がある。

II 高齢者に係る交通事故防止に向けた取組

政府としてどんな取り組みをしているのか。

1 高齢運転者による交通事故防止のための取組

(1) 従来からの取組

ア 高齢運転者に対する講習等の充実→内閣府による運転者講習・シルバーリーダーの養成事業など

- イ 他の世代の運転者に対する働きかけ
 - ウ 道路交通環境の整備等→信号を見やすくするなど
 - エ 事故危険箇所対策の推進
 - オ 高齢運転者の特性を考慮した車両安全対策→車自体を安全にする
 - カ 道路交通法の改正→臨時認知機能検査導入等により、運転が危険な方には運転を止めてもらう。また、運転に支障のない方には、安全に運転をしてもらうための高齢者講習内容の見直しなど。
 - キ 運転免許証の自主返納制度の周知
 - ク 高速道路等における逆走対策等の取組→逆送件数はやはり高齢者が目立つため、路面標示や矢印等の視覚的に認識出来る標識などの対策をしている。
 - ケ 公共交通機関の確保に向けた取組→免許返納後の交通機関として、コミュニティーバスなど公共交通機関を活用して取り組んでいく。→まだまだ足りないのが今後の課題
- (2) 高齢運転者による交通事故防止対策に関する関係閣僚会議以降の取組
- 7月に交通対策本部にて決定。
- ア 改正道路交通法の円滑な施行
- ・認知症対策を強化した改正道路交通法が29年3月から施行されたことから、その円滑な施行に万全を期すこと→「認知症のおそれ」に該当した場合、医師の診断が必要
 - イ 社会全体で高齢者の生活を支える体制の整備
 - ・自動車の運転に不安を感じる高齢者の移動手段の確保など社会全体で高齢者の生活を支える体制の整備を進めること→免許返納後の足の確保→タクシーの相乗り、自家用有償輸送、介護タクシーの利用の検討
 - ウ 高齢者の特性が関係する事故を防止するために、専門家の意見を聞きながら更なる対策
 - ・更なる対策の必要性について、専門家の意見を聞きながら、検討を進めること。
 - ① 運転免許制度の更なる見直し
 - ② 「安全運転サポート車」(サポカー)の普及促進 ※自動停止装置などがついた車
 - ③ 逆送対策 →通報、警告する技術の検討など

以上を踏まえて高齢者にご指導頂きたい。

●講義「交通安全教育デモンストレーション」／12月12日(火)15:25～16:05

(警視庁交通総務課交通安全教育指導係)

警視庁交通総務課交通安全教育指導係の活動紹介



【警視庁で実施されている活動について】

◆警視庁女性白バイ「クイーンスターズ」について◆

<活動内容>

- ・オートバイの実技指導や高齢者、幼児、自転車、貨物車等に対する交通安全教育を行う。
- ・イベントやパレード先導等で特別乗車服を着用する事によって交通安全教育に興味を持ってもらう。
- ・デモンストレーションなどを行い、実際に体験してもらう。交通安全に対する知識だけでなく、技能面もフォローすることで交通事故防止に繋げていく。
- ・「見てわかる、聞いてわかる、見ている人に飽きがこない」安全教育を行っている。(会場などではデモンストレーション演技などに対してアナウンスなどを入れるなどしている)
- ・会場、対象等にそれぞれによって手法・場所・内容・人数を変えて様々な安全教育を行う。

<安全教育の手法>

- ・着ぐるみ、パペット人形、腹話術人形は特に子供の興味を持ってもらえる。
- ・カラクリBOX・・・小さな会場向け、10分～20分位一人で進められる。(道具があると自分でも進行が確認できる)

◆交通安全教育の組立て方、気をつけていること◆

- ・対象(高齢者、子ども、人数、場所等)を聞いて指導内容を決める。
- ・「交通安全趣旨」を柱として内容を考えてみるのもよい。
- ・小学生(低学年・高学年)、高齢者、二輪ドライバー、一般運転者等によって内容を変える。
- ・地域によって交通事故件数や事故態様など特徴が異なるので、各々で肉付けして対応していく。
- ・出来るだけ絞ってわかりやすく端的に伝える。具体的かつ簡単な言葉で。

●手法

- ・資料(パワーポイント等)を使う。腹話術・パペット、交通教室・実技、紙芝居、放送、リベートなどがある。特に腹話術やパペット人形で興味を引きつける方法は有効的な手段になる。音楽などを流す事も目を向けてもらえるきっかけになる。
- ・年代別。子どもはクイズ、ゲーム、実技などで興味を持ってもらう。高齢者は言葉遣いに注意をする。どういった言葉なら理解・共感を受けやすいか考える。客観視が大切。話合い(リベート)なども有効。
- ・自分の知識を蓄えること。(例・大人と子供の視野の違いなど→子供は視野が狭いから顔をしっかりと左右に向ける→説得力がある)材料集めをしっかりとる。

●時間と環境

- ・講話は幼児・子供には短時間(10～15分)が限度と思われるので、訓練・実技・手遊びなどを合わせて実施時間となる。
- ・場所(環境)選びが重要。「聞く・見る・意欲をそがない」。太陽の光や何かが視界に入ることなどにより気が散ってしまうため、参加者が集中できる環境を考える必要がある。会場で道具を使う時は後方まで見えるように工夫する。
- ・交通安全教育に興味のない人に対して自ら出向いて指導するのもよい。
- ・誰に何を伝えたいか(内容が出来たら短い内容であれば覚える、長くてもメモ程度でチラ見)、自分に自信を持って伝える。

●導入

- ・開始時、体操・ゲーム等から入り、興味を持ってもらってから話し始める。最初だけでなく、心を和らげる(見知らぬ人同士の会話に繋がる)の意味でも合間に入れる事も有効。

===== 質問・回答・感想 =====

【質問】

バイク(自動二輪)の免許を取得したいと思っている学生について説明の仕方を教えてください(すぐでなくても将来的にも)

【回答】

- ・事故の現状(右直の事故が多い)
- ・オートバイの特性
- ・人の特性(目の錯覚 小さく見られやすいなど)
- ・プロテクター着用の必要性
- ・交通ルールの順守

【質問】

HP内の画像は自由にに使わせていただいてもいいでしょうか?(おたより、教材作りで)

【回答】

画像を切り抜いて使用することは不可。文章全体としては可。

【質問】

DVDを使用して見ている人を引き寄せていらっしゃいましたが、DVDの作成方法を教えてください。(今後の資料作りの参考にしたい)

【回答】

ビデオや写真をパソコンに取り込んで、ソフトで編集しています。

【質問】

話し方が聞きやすく、分かりやすい言葉でしたが、安全教育を担当されるにあたり、そういった研修を受けているのですか。(話し方講座のような)

【回答】

研修は受けていません。先輩からの引継ぎ指導です。

【質問】

親や先生などが興味を持ち熱心に参加してくれるような講話や教室の内容があれば教えてほしいです。

【回答】

かるがも教室(親は親、子は子でそれぞれ安全教育をする。)

3人乗り自転車とか、電動自転車の体験を行ったり、防犯教室と一緒にいってもよい。

【質問】

実際にされている交通安全教育の内容をもう少し具体的に教えていただけたらありがたいです。

【回答】

基本的には、内容は変わらない。対象によって、クイズ形式にしたり、パワーポイントにしたり、言い方を変えたりしているだけです。

【質問】

核家族が進んでいる現状、地域で幼児、小学生の合唱、高校生の吹奏楽団等の集まるタイミングの情報にもり込んで、推進は促されているのでしょうか？警視庁から警察署へ（国から自治体へ働きかけはありますか）

【回答】

各警察署に対して、ライフサイクルポイントに出向いて、機会を捉えてやるように推進している。（ゲートボール大会、カラオケ大会、自治会、スーパー、駅など）

各対象に応じて、その都度本部指示をしている。

●グループ討議結果発表／12月12日(火)16:15～17:00

「高齢者の交通安全」Aグループ

司会進行:立山 尊規(熊本県:熊本南地区交通安全協会)

書記:岡田 恵(長野県:一般財団法人 長野県交通安全教育支援センター)

発表者:小沢 記枝(北海道:江別市生活環境部市民生活課市民活動係)



【現状の課題・問題点】

- 1 反射材をつけてもらうにはどうすればよいか。
- 2 高齢者の意識を向上させる。2、3回ある所はどうしたらいいか。
 - ・教材(タブレットも)関係団体(県や警察、団体など)の資料を活用すれば違った伝え方ができるのではないかと。同じ話をしないため、重複しないため。
 - ・データ化して毎年違う話にしたらどうか。(クイズやパークポイントなど)
 - ・体験型の内容の題目やまとめ、(高齢者の印象をもつ)をどうすればいいと思う。
 - ・分野をすみ分けていけばいいと思う(警察など)。

【課題・問題への対策案】

- (1)自発光材、反射材ありなしの違いを見てもらう体験型(夜間)の教育をする。
 - ・講話中につけてもらう。現場でフラッシュをたいて反射させると効果的である。
 - ・年代によって反射材(雪の結晶のデザインなど)の種類を変えている。
 - ・スーパーや店に入る前に配り貼ってもらう(キャンペーン)
 - ・コンビニの袋でも反射材代わりになるのでつけてもらっている。
 - ・無色の反射材を配布し好きにデザインにして幅広い年齢層につけてもらっている(動物型やバンド式)
 - ・保育園等の祖父母参観日に孫からのプレゼントとしてつけてもらう。
 - ・高齢者が好む色、素材などにしたほうがいい。
- (2)寸劇やクイズ形式を取り入れ興味を持ってもらう。
 - ・タブレットを使用して交通安全のゲームをしてもらう。
 - ・ドライブレコーダーの映像を流す。
 - ・警察にデモンストレーションを依頼し、交通安全協会などのボランティア団体に見てもらう。
 - ・ドライブ、歩行、自転車の各シミュレーターを使用する。
 - ・自動車を使用して死角があることを体験させる。
 - ・クイックウインガー、アームクイックウインガー、フット(足)を使用して体験してもらう。
 - ・具体的な交通事故の事例を交通安全教育に取り入れる。

【対策案を実施する上での問題点など】

(1) 関係団体の協力が必要となる。

- ・対象者が好むような反射材は市販されていない。
- ・反射材の業者に使いやすいものを提案する必要がある。

(2) 交通事故の実態や事例を取り入れるには、警察に協力してもらう必要がある。

「高齢者の交通安全」Bグループ

司会進行:二橋 理佳(浜松市:静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部)

書 記:増田 絢音(静岡県:一般財団法人静岡県交通安全協会富士地区支部)

発 表 者:二橋 理佳(浜松市:静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部)



【現状の課題・問題点】

◎高齢者はどうすれば講習に参加してくれるか。

【課題・問題への対策案】

- ・講座の参加者を通じて近隣や自治会長に対し、講習参加を呼びかけてもらう。
- ・各団体のホームページやチラシ、ポスターで講習を呼びかける。
- ・病院やスーパーに出向き反射材やチラシを配布して呼びかける。
- ・自宅に訪問するなどして出前型の交通安全教育をする。

【対策案を実施する上での問題点など】

- ・訪問する時にドアを開けてくれない人もいるため、その地域に長く住んでいる方に声をかけて一緒に訪問してもらうなどの工夫が必要である。
- ・交通事故の実態について地域性を伝えることが難しい。

「自転車の交通安全」Aグループ

司会進行: 澁谷 禎治(仙台市: 仙台市宮城地区交通指導隊)

書 記: 古山 未稀(静岡市: 一般財団法人静岡県交通安全協会清水地区支部)

発 表 者: 菅原 希(新潟県: 新発田市役所地域安全課)



【現状の課題・問題点】

- 1 交通安全教室において、交通事故防止を効果的に伝えるためにはどうすればよいか。
- 2 学校や家庭で自転車の乗り方の指導をするにはどうすればよいか。
- 3 自転車に対する指導者のスキルアップはどうすればよいか。

【課題・問題への対策案】

- (1) 根気強く呼びかけ、指導者が身を張って指導する。
 - ・自分の地域の危険箇所を児童や生徒たちに自分達で考えさせる。
 - ・スケアード・ストレイトなどインパクトの強い教育を実施する。
- (2) 学校等で自転車親子教室を実施し、家庭へも普及させる。
 - ・教師が研修等を受講したり、民間等の協力を得るなどする。
 - ・自転車大会への参加を促進する。
- (3) 繰り返し指導する。
 - ・業者や民間等の協力を得て、一緒に交通教室等を実施していく。

【対策案を実施する上での問題点など】

- (1) スタントマンを依頼する際の費用がない。
 - ・怖いシーンを見せたくない。
- (2) 近隣地区と業者の取り合いになる。

「自転車交通安全」Bグループ

司会進行:石岡 孝善(広島県:尾道市役所総務部総務課生活安全係)

書 記:村中 穂乃加(静岡県:一般財団法人静岡県交通安全協会菊川地区支部)

発表者:宮里 徹(沖縄県:与那原地区交通安全協会)



【現状の課題・問題点】

- 1 雨天時の自転車の交通安全教室について、効果的な方法はないか。
- 2 自転車を上手く操れない小学生に対する指導はどうすればよいか。
中学生・高校生は街頭などで違反を注意しても従わない(無視)、中高生がいるがどうすればよいか。
- 3 交通安全教育は幼い頃から行うことが大切であり、地域・家庭での教育が必要である。しかし、特に保護者が交通ルールやマナーを守っていないように思える。
保護者に交通ルール・マナーを守らせるにはどうすればよいか。

【課題・問題への対策案】

- (1) 体育館等での実施指導に切り替える。
 - ・学年ごとにレベルに合わせた内容のDVDを上映する。
- (2) 練習時間の増加を図る。
 - ・街頭での注意、呼びかけを繰り返し行う。
(本人が気をつけようと心掛けるような呼びかけを行う。)
- (3) 自転車事故は被害者のみでなく、加害者になる可能性もあることを、保護者から子供に伝えてもらうよう、講習で依頼し、保護者の交通意識の向上を図る。

【対策案を実施する上での問題点など】

- (1) 体育館にて実地ができる学校ばかりではない。
- (2) 警察官と協力して行いたい、警察の協力が必要となる。
- (3) 交通安全講習に保護者を参加させることが困難である。
保護者に関心を持ってもらう必要がある。

「反射材等の効果的な使用方法」反グループ

司会進行: 小林 克行(茨城県:茨城県生活環境部生活文化課安全なまちづくり推進室)

書記: 糸瀬 未来(長崎県:一般財団法人長崎県交通安全協会)

発表者: 田山 桂子

(三重県:一般財団法人三重県交通安全協会安全対策部三重県交通安全研修センター)



【現状の課題・問題点】

◎「配布した反射材をいかに着用してもらうか。」

- ・反射材を配布してその場でつけてもらえるように袋を破いて渡すが、靴やバックなどには貼り付けないでくれと言われ嫌がられることがある。
- ・目立たない色のものを配ったりするが恥ずかしいといって貼り付けるのを躊躇する。
- ・自転車に関しても反射材を配布しているがなかなかつけてもらえない。
- ・使ってもらいたい人に限ってなかなか着用してもらえない。
- ・交通量が少ないために、反射材の効果については説得力が無い。
- ・反射材の効力について話してもなかなかつけない人がある。
- ・意識が高い人は交通教室や講話に来る。問題は来ない人にどのようにして反射材を使ってもらうか。
- ・街頭や交通量が少ない地域では、反射材の効果がなかなか地域に浸透しない。

【課題・問題への対策案】

(効果を解ってもらう)

- ・靴のメーカーに反射材を使用したものを開発してもらう。
- ・小学1年生のワッペンのように、交通事故に遭ったら保険が出るような特典があれば着用率が上がるのではないかと。(反射材つけている人が買い物に来たらポイントつける等)
- ・交通安全教室の後、(意識が高いうちに)着用してもらう。
- ・普段使うものに貼り付けてもらう。(杖など)
- ・反射材の効果を体験してもらう。
- ・反射材に関する教材を作成する。
- ・薄暮時にナイトスクールを実施する。(運転手からどのように見えるか体験してもらい、反射材、袋の色の見え方について講話を実施する。)
- ・年齢層に合わせて配布する反射材を変える。
- ・自発光式の反射材を活用する。

【対策案を実施する上での問題点など】

- ・反射材の体験には使う道具(ゴーグルライトなど)や看板などの購入や設置に費用がかかる。
- ・繰り返しの地道な活動だけではモチベーションが上がらない。
- ・反射材以外にも課題が多くてなかなか反射材に重点を置いた活動を実施できない。
- ・講習会などを開いても意識が高い人しか集まらない。問題は来ない人にどのように反射材の話を伝えるかである。

「幼児・児童の交通安全」Aグループ

司会進行: 土井 孝善(広島市: 広島市道路交通局道路管理課安全対策課係)

書 記: 倉橋 ひかり(長崎県: 一般財団法人長崎県交通安全協会)

発 表 者: 蓑田 真奈美(北海道: 千歳市市民環境部市民生活課防犯・交通安全係)



【現状の課題・問題点】

◎「幼児・児童に対する歩行訓練等の方法」

- ・訓練ではきちんと出来ていても普段意識できていない。
- ・小学生になった時に一人で道路を安全に歩けるか。(危険をどう印象づけられるか。)

【課題・問題への対策案】

- ・子供の意識を高めるために親(家族)をまきこんで交通安全指導を行う。
- ・身の周りの道路の危険な場所を子供に示しながら指導する。
- ・交通事故の場面を演じて危険を印象付ける。
- ・ダミー人形を使用して交通事故を再現する。(飛出しの危険性を教える。)
- ・親と一緒に歩行訓練を行う。
- ・地域に設置されている交通公園を活用する。
- ・着ぐるみ、腹話術、紙芝居などを活用してソフトなイメージで子供たちに指導する。
- ・DVD などを見せる。
- ・親子で交通安全教室に参加してもらう。
- ・子供大会、お祭りなどの行事を利用して交通安全教室を行う。
- ・実際に道路に立って指導を行う。
- ・母親学校→母になる人に対する交通安全教室を行う。
- ・歌にするなどして印象に残るような指導をする。

【対策案を実施する上での問題点など】

- ・マンネリ化している。(同じ教材が繰り返し使用されている。)
- ・保護者に対する交通安全に対する意識づけが困難である。
- ・幼稚園・保育園・小学校の先生の中にも交通安全に対する関心が薄い方々がいる。

「幼児・児童の交通安全」Bグループ

司会進行: 清水 彰(新潟県:十日町市交通指導隊)

書 記: 砂川 邦子(沖縄県:宮古島地区交通安全協会)

発 表 者: 伊藤 智絵(福井県:鯖江市市民まちづくり課)



【現状の課題・問題点】

- 1 指導中に話を聞いてくれない子供への対応はどうすればよいか。
- 2 指導すべき保護者の交通マナーが悪いがどうすればよいか。

【課題・問題への対策案】

- (1) 子供の集中力は 30 分ほどといわれているがその中で視覚や聴覚に訴えるような方法で注意を引く。
 - ・風船などの玩具を使う。
 - ・身振り手振りを大きくして意識を指導者に持ってくる。
 - ・指導内容の構成を組み換えたり工夫をこらす。
 - ・メリハリを持たせる。
- (2) 保護者や学校の先生に対する交通安全教育を実施する。
 - ・定期的に交通安全新聞などの広報誌を作成、発行する。
 - ・教室の中で「帰ったらおうちの人に話してね。皆が先生になってね。」などと子供たちにお願ひする。

【対策案を実施する上での問題点など】

- (1) 準備に時間を要する。
 - ・他の指導員の承認や同意が必要となる。
- (2) 費用がない。
 - ・子供が親へ伝える内容には限界がある。

●事例発表／12月13日(水)9:30～10:15

菊池 節子(岩手県:北上市役所まちづくり部地域づくり課)



【発表内容】

冬の交通安全教室(幼児向け)における、デジタル紙芝居(北上市バージョン)を使った指導の紹介。

《手づくり教材等》

①北上市交通安全キャラクター「パトラ」

②幼児向けの春の交通安全教室

- ・縦 90×横 180cm のボードを2枚重ねてつくった大型の飛び出す絵本を使用
- ・車の走行や店舗のシャッターの開閉などの仕掛けがある
- ・子供が絵本にパトラを貼ることも可能
- ・子供が興味を持って楽しく交通ルールを学べる

③高齢者対象の交通安全出前講座

- ・今日は何の日
- ・方言での寸劇
- ・交通安全クイズ

④交通安全クイズの紹介

- ・完全オリジナルの手づくりのクイズ

《冬の交通安全教室》

- ・対象は年長組、全体で 35 分程度の内容
- ・音当てクイズ(10分)
- ・デジタル紙芝居(10分)
- ・交通安全カードゲーム(15分)

《子供の反応を含めた実演》

①音当てクイズ

- ・急ブレーキ(飛び出しの危険の説明)
- ・救急車のサイレン(救急車の説明)
- ・パトカーのサイレン(パトカーの説明)
- ・消防車のサイレン(緊急車両が来たときの歩き方の説明)
- ・踏切の警報器(踏切の渡り方の説明)

②デジタル紙芝居

- ・雪道の危険
- ・横断歩道の標識
- ・その他の冬の道路での注意

③交通安全カードゲーム

- ・17種類の絵が描かれた手づくりカード
- ・スクリーンに映し出された絵と同じカードを探すゲーム
- ・見つけたカードに関する注意事項を確認

●事例発表

藤城 千秋／中臺 貞子

(埼玉県:越谷市市民協働部くらし安心課)



【発表内容】

高齢者向けの講話や、幼稚園・小学校低学年向けの交通安全教室などで使っている教材の紹介

《高齢者向け》

・各色の T シャツを張り付けた黒い布を用意

色の違いにより、時間の経過とともに視覚認識が異なることの実験を行い、なるべく明るい色の服や、反射材の活用を推奨

《幼稚園年長・小学校低学年向け》

・交差点の絵

間違い探しで子供たちに危険な場所を探させ、解説

●事例発表

大村 茉依／久野 仁子／古山 未稀
(静岡市:一般財団法人
静岡県交通安全協会清水地区支部)



【発表内容】

高齢者の交通事故防止において、講習会をはじめ様々な活動をしている。

①活動内容の紹介

《各地区 高齢者講習会》

・清水内 21 地区の交通安全会・自治会から依頼を受けて講習に参加

《清水区シニアクラブ連合会(各地区)》

・1年に1回開催するシニアクラブの集まりの際に、依頼して参加

《安協清水女性部 水戸黄門寸劇》

・寸劇を通して道路の渡り方を伝える

《講習会の内容》

・清水区内、各地区の交通事故発生状況

・清水区内、各地区の交通事故の特徴

・対象者の交通手段に合わせた事故防止ポイント

《俊敏性測定体験》

・測定器「クイックアーム」の体験

《高齢者宅訪問指導(高齢者交通事故防止モデル地区)》

・21 地区の中から2地区、輪番制で高齢者宅を訪問して交通事故防止を呼び掛ける

《反射材の配布》

・静岡市から提供された反射材を配布、活用できるよう直接付けてあげることもある

・高齢者講習の際には必ず配布



《夕暮れピカッと作戦！》

- ・10～11月、夕方から夜間の事故防止
- ・自動車のライトオンの呼び掛け、歩行者・自転車に反射材の配付など

②高齢者に行っているトレーニングの参加体験

- ・見るトレーニング
 - 広範囲をまんべんなく見る訓練
- ・後だしじゃんけん
 - 認知、判断、行動・操作の訓練

【質問】

・埼玉県事例に質問

交差点のイラストで車の間から渡ってこようとしたお嬢さんがいました。その対面で友達が呼んでいる様子でした。道路の途中で友達を呼ぶ行為もあまりよい行為ではない。呼ぶのであれば横断歩道の方へ行くか、自分が友達の方へ行く。そういう指導の方法もあるのかなと感じました。

【回答】

ありがとうございました。参考にさせていただきます。

【質問】

・静岡県事例に質問

長寿会に加入されていない方への戸別訪問をされているということですが、その名簿はどのように取り寄せているのですか。

【回答】

名簿は取り寄せていません。

長寿会については自治会や交通安全会の方が加入の有無を把握しているので、その方たちが集客をしてくれて、私たちが行くという形になります。

【質問】

・静岡県事例に質問

行くとおっしゃっていましたが、こういう講習をやっているという、募集はどのように行っていますか。ホームページには載せていますか。

【回答】

団体などには特に言っていないのですが、安全会が強く活動をしているので、その方たちが回覧板などで地区の方たちに知らせています。その方たちが主催者という形で、私たちは講義に行っています。基本的には地区の方たちが参加者を募っている形になっています。

ホームページには載せていません。

●講義「自転車の事故防止のために」／12月13日(水)10:30～11:30

石井 征之

(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 主幹)



配付資料:「自転車の事故防止のために」

本講義の目標:

自転車事故の現状と安全対策を知り、学校等での講演・講習等に役立つ情報を得る。

1. 交通事故・自転車事故の現状

平成 28 年中の交通事故負傷者数は約 62 万人で、これだけの人が交通事故で苦しんでいるのは異常であり、一人でも少なくしようと日々一生懸命交通安全指導に取り組んでいる皆さんの活動は大切な活動といえる。

細かく見ると高齢者の「歩行中」の交通事故が多い。

交通事故死者全体における高齢者の占める割合は、増加傾向にあり、平成 28 年は過去最高の 54.8%までになった。

2. 近年の自転車安全対策の取り組み

(1) 第 10 次交通安全基本計画

- ・日本は飛行機(航空)、船舶、道路交通の3本の柱を中心にして五か年計画を立て、50 年目に入っている。あらゆる行政、都道府県が五か年計画の目標に向かって頑張っている。
- ・第 10 次交通安全基本計画の数値目標は、平成 32 年までに 24 時間死者数を 2500 人以下とすることであるが、同計画が発表された平成 28 年には 4117 人の交通事故死者がいた。現在、非常に高いハードルに向かって、あらゆる方面で努力がなされている。

(2) 自転車安全利用五則

- ・今から 15～20 年前、車社会の日本で自転車事故が右肩上がりに増えてきていた。
- ・平成 19 年7月に自転車安全利用五則に関する通達が出た。平成 20 年6月に罰則や細則をつけた改正道路交通法が施行された。平成 25 年には路側帯、平成 27 年には自転車運転者講習制度が加わった。
- ・平成 19 年7月に警察庁が「自転車安全利用五則」を活用して事故を減らす広報啓発をするよう通達を出してから、それまで右肩上がりに増えていた自転車事故が、平成 20 年からは、わずかながら下がってきている。

(3) 路側帯の問題

- ・平成 25 年 12 月施行の改正道路交通法により、それまで路側帯の相互通行が可能だったのが、左側部分に設けられた路側帯に限って自転車が通行できることとなった。

(4) 自転車運転者講習制度の問題

- ・平成 27 年6月施行の改正道路交通法により、14 歳以上であれば中・高校生も講習制度の対象となった。中・高校生やその保護者に話す場合には、自転車の危険行為 14 類型違反は 14 歳以上が対象となることを是非伝えてほしい。

(5) 最近の自転車の安全利用に関する情報: ヘルメット

- ・愛媛県はすべての県立高校の自転車通学の生徒にヘルメット着用を義務化した。通学時の着用率は 100%で、10 件の自転車事故で命を守ることができたという(平成 29 年3月1日現在)。
- ・1年間かけて、県立高校の校長会、警察、保護者、生徒の代表等を入れてヘルメット義務化を決めた。ヘルメットの形は生徒の希望を入れて、7~8つのうちから好きなものを選んだ。
- ・ヘルメットを着用させることは非常に難しいが、命を守るために効果があるので、これから義務化が広がっていくことが望まれる。

(6) 最近の自転車の安全利用に関する情報

- ・条例で自転車保険を義務化した自治体も増えている。非常に高額な賠償のケースが出ているので、自転車保険には必ず入る時代である。
- ・県教委が高校生に自転車安全講習と確認テストを受けることで自転車運転免許証を交付しているところもある。
- ・神奈川県大和市のように小学校5・6年生を対象に自転車保険に一括加入しているところもある。

3. 自転車の基本的なルール

(1) 自転車安全利用五則

- ・道路交通法2条で、自転車は軽車両とされている。これが基本であり、自転車を「運転」する意識を持たせることが大切である。

(2) 五則の1

- ・車道が原則、歩道は例外。
- ・車道の左側を自転車で走るのに危険がある場合に備え、例外を3つ設けた。
 - ①「普通自転車の歩道通行可」の標識・標示がある場合
 - ②13 歳未満の子供、70 歳以上の高齢者、身体の不自由な人が普通自転車を運転しているとき
 - ③車道又は交通の状況から見て、歩道通行がやむを得ないと認められるとき

(3) 五則の2

- ・車道は左側を通行。自転車は軽車両である。

(4) 五則の3

- ・歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行。
- ・歩道は本来車両が入ってはいけない部分であることを忘れてはならない。
- ・小学生などには、歩道を歩く場合、車道寄りには自転車が通るから、できるだけその部分を避けて、自転車と接触しないように気をつけることを話してほしい。

(5)五則の4

・安全ルールを守る。

①夜間のライト

- ・横浜の高校2年生の女子生徒が無灯火の自転車で看護師に追突。看護師は腰と首を痛めて仕事ができなくなり、2年後に女子生徒と父親を相手に訴訟を起こした。その結果、女子生徒に5000万の支払が命じられた。高校生が事故を起こした場合、父親ではなく本人が直接責任を負う事例も出てきているので話をしてほしい。
- ・ライトの意味は2つあり、自分の前方の安全確認(10m先まで照らせなければならない)、及び自転車の存在を相手に知らせることである。

②青信号の意味

- ・幼稚園・小学校低学年に是非繰り返し言ってもらいたい。
- ・青信号の意味は「横断してもよい」ではなく「横断することができる」。しっかり周りの安全を確認してから横断をしてくださいということ。

③交差点での自転車の右折

- ・信号機のある交差点では必ず2段階右折する。右折信号に従うことはできない。

④自転車横断帯が減少している

⑤一時停止標識・標示

- ・必ず止まる。重大事故につながるので、決して軽視してはならない。

⑥二人乗り・並進の禁止

- ・歩行者との接触事故につながる。

⑦飲酒運転の禁止

- ・自動車と同様である。

(6)五則の5

①子どもはヘルメットを着用

- ・幼児・児童にヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。
- ・頭部の損傷を防ぐ意味で非常に効果があるので大切である。

②傘差し運転・携帯電話使用運転・イヤホン等使用運転の禁止

- ・特に携帯電話は非常に問題。

4. 自転車事故で問われる責任

①責任は自動車事故と同じ

- ・9000万円台の賠償が命じられた例もある。

②事故を起こして刑罰を受けた場合、免許が与えられない職業がある

- ・医師、教師、調理師など免許を必要とする職業は自転車での交通事故や違反で失職する可能性がある。

③自転車で事故を起こしたときの義務

- ・救護措置、危険防止措置、警察への報告義務がある。警察への報告がない場合はひき逃げとなる可能性がある。
- ・交通事故の被害に遭った場合も、その場で即警察を呼び、学校に連絡することを繰り返し伝えてい

ただきたい。

5. 自転車事故と保険

(1) 自転車保険の種類

- ・最初に自動車保険・火災保険等の特約を確認すること。現在、コンビニなどでも自転車保険を扱っている。
- ・TS マーク付帯保険は、乗った人が誰であっても、自転車にかけられている保険である。

(2) ハインリッヒの法則

- ・死亡事故など重大事故が1件発生する過程において、それ以前に小さな事故が29件発生していた。さらに調べてみると、ヒヤッとしたりハッとしたりしたことが300件発生していた。
- ・例えば雨の日に10分早く出るなどして、ヒヤッとしたりハッとするをなくすことによって300を150にすれば、重大事故は0.5になる。だから余裕を持って行動し、いつでも交通ルール・マナーを守ることを伝えていただきたい。

6. さらに交通事故防止のために

(1) 反射材

- ・配って終わりではなく、その場で靴等に貼付する。

(2) 内輪差

(3) スマートフォンを見ながら運転することの危険性

- ・非注意性盲。
- ・イヤホンをして携帯電話を操作しながら赤信号で交差点に入った死亡事故の例もある。

(4) 安全教育の5つの方法原理

- ・故吉田瑩一郎氏(日本体育大学名誉教授)が提唱

- ①一回性の原理:一瞬の事故で命を落とすことがあること、一度の違反・事故で自分の夢や人生設計に大きな影響を与えることがあることを認識させる。
- ②危険予測の原理:「もしかして」という意識を子供たちに持たせる。
- ③自己統制の原理:自分をコントロールできる力を持つ。
- ④生活習慣確立の原理:生活習慣の乱れは非行につながる。交通安全母の会が提唱した「交通安全は家庭から」というスローガンは非常に重要である。家庭の中で意識的に交通安全について話すことが非常に大切だと思う。
- ⑤地域性の原理:都市中心部で暮らしている子供と、郊外の子供では全く違う。住んでいる地域の実情にあった交通安全教育をしなければならない。

(5) まとめ

- ・家庭における基本的な習慣の確立が非常に大切なポイント。
- ・最終的には命の問題であり、交通安全指導は、重要で大切な仕事であることを再認識していただき、日々の活動に尽力していただきたい。
- ・日常的な生活の中に交通安全の基本があることを保護者に伝え、交通事故がテレビ等で報じられた時、身近なこととして、常に一言でも話題になるような家庭が多くなることを願っている。

【質問】

小学生の自転車教室の指導で、手信号の指導をしています。手信号をすると子どもたちの注意が手信号だけに集中し周りの状況を見落としたり、運転がぐらついたりしてしまいます。それでも手信号の指導は必要なのでしょうか。教えてください。よろしくお願いします。

【回答】

「手信号」は、交通他者に対して、自分の「行動変化」を予め伝える重要な役割です。たとえば、後続車を無視して急ブレーキをかけたり、急な進路変更をしたりすることは追突事故などの重大事故を誘発させることにもなりかねません。その意味から、手信号を通じたコミュニケーションをしながらの運転は非常に重要だと考えます。

しかしながら、ブレーキがしっかりとかけられない、ハンドルがうまく操作できないなど、運転が未熟な状態で「手信号を優先する実技指導」には疑問が残ります。まずは「直線走行やスラロームなどを安定して走行できる」「決められた範囲の中でしっかりと止まることができる」など、基本的な運転（走る・曲がる・止まる）ができた子に、次の段階として、「周囲の交通他者とのコミュニケーション方法」としての実技指導を行ってみてはいかがでしょうか？

「なぜ」という意味を教えることは将来のより良いドライバーの素地を育てるプレドライバー教育にもつながります。その子の「一生につながる」指導をお願いします。

【質問】

先生の講座を修了した際、涙があふれました。先生の講座はインターネットなどで配信されていますでしょうか？

【回答】

インターネット配信はされていません。

問い合わせ等がありましたら日本交通安全教育普及協会までお願いします。

【質問】

一回性の原理とは最終的にどういう事でしょうか？

【回答】

一瞬の事故で命を落すことがあること、一度の事故で自分の夢や人生設計に大きな影響を与えることがあることを認識させること。

「人生一度、命は一つ」であることをしっかりと意識させることだと考えます。

●閉講式・主催者挨拶／12月13日(水)11:45～11:55

和田 昭夫(内閣府 大臣官房審議官)



皆さん、おはようございます。ただいま御紹介を頂きました内閣府で交通安全対策を担当しております、大臣官房審議官の和田でございます。

交通安全指導者養成講座の閉講に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

まずは3日間にわたります講義を真剣かつ熱心に御聴講いただきまして、本当にありがとうございました。大変お疲れさまでございました。

本講座では子供や高齢者の交通安全教育に関する講義、あるいは各地で実施されている方の事例発表など、交通安全指導に必要なプログラムを、限られた時間ではございましたけれども、受講していただきました。基本的な理論だとか、あるいは実践的な手法に関する知識、スキル、こういったものを習得いただけましたでしょうか。

まず交通情勢を申し上げますと、昨年は24時間以内の交通事故死者数3904人ということで、昭和24年以来67年ぶりに4000人を下回ることができました。これは皆様の日々の地道な街頭活動や啓発活動のたま物でございまして、その御尽力に対しまして、この場をお借りして、改めて御礼申し上げる次第でございます。

しかしながら、事故の情勢、特にお亡くなりになった方の状況を見ますと、高齢者の方の割合が非常に増えております。54.8%ということでございますので、こういったところは今後対策を練っていく上でのポイントになってくるのかなと思っております。

長年、私はもともと警察庁から今の内閣府に来ておりますので、長年この交通警察といいましょうか、事故対策に携わって感じますのは、特にこの12月になりますと、非常にそわそわしてくるんですね。何とか去年よりも事故が、あるいはけがをされたり、亡くなったりということが減らせないかと。正に除夜の鐘を聞くまで、本当に落ち着かない日々というところです。

いろいろな行政分野がありますが、この成果というのでしょうか、結果が数字に表れるというのは、ある意味非常に厳しいものがありますが、逆に申しますと、やったことが数字に表れてくるというやりがいもあるのかと思っております。ただいま政府では、平成32年までに、死者数2500人以下で、世界一安全な道路交通を実現しようという目標を立てています。なかなか高いハードルかと正直思っておるところもありますけれども、今申しましたように、この分野というのは、特徴をよく捉えて、そして的確な対策、手を打っていけば、必ず成果につながるのではないかと実感しております。

野球に例えますと、バッターのくせをよく読んで、内角が弱いのか、外角が弱いのか。カーブが打てないのか。漠然とストライクゾーンに球を投げるのではなく、その相手に応じて球を投げていくことで、打ち取ったり三振を取ったりということができるようなのだろうと思います。それとちょうど似ているではないかと思っております。

冒頭申しましたけれども、今回の講座を通じまして、習得いただきました知識やスキル、これが今度

皆様がマウンドに立たれるときの技術につながってまいりますので、どうかこの3日間の成果を、それぞれの地域、学校にお持ち帰りいただきまして、日々の活動に生かしていただけたらと感じております。何とぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたけれども、引き続き交通安全教育、それ以外の活動の御支援、御協力をお願い申し上げますとともに、今後の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

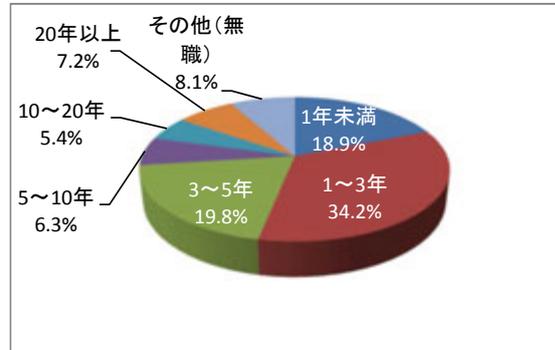
御清聴ありがとうございました。

4. アンケート集計結果

実施方法 : 受付時に配布資料とともに配布。講座終了後、回収。
 調査方法 : 無記名 記入方式(選択、自由回答)
 調査日 : 平成29年12月11日(月)～13日(水) 参加者数:111名 回答数:111名 回答率:100%

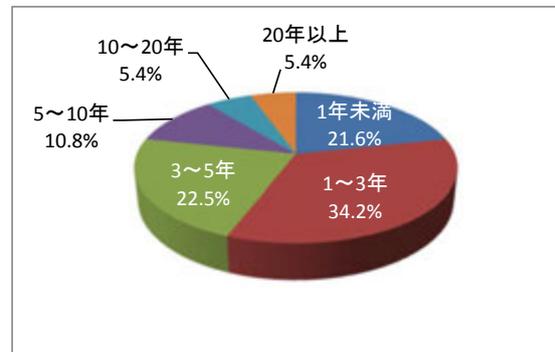
1 現在の在職期間をお教えてください。

	人数	割合
1年未満	21	18.9%
1～3年	38	34.2%
3～5年	22	19.8%
5～10年	7	6.3%
10～20年	6	5.4%
20年以上	8	7.2%
その他(無職)	9	8.1%
未記入	0	0.0%
合計	111	100.0%



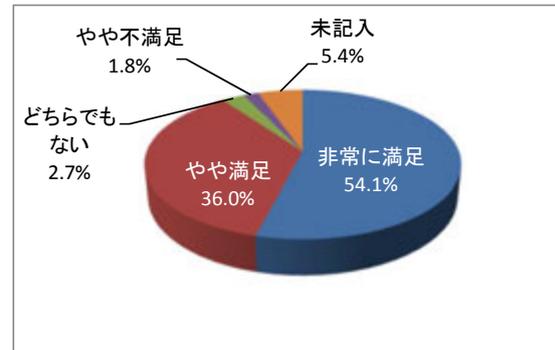
2 交通安全業務の経験期間をお教えてください。

	人数	割合
1年未満	24	21.6%
1～3年	38	34.2%
3～5年	25	22.5%
5～10年	12	10.8%
10～20年	6	5.4%
20年以上	6	5.4%
未記入	0	0.0%
合計	111	100.0%



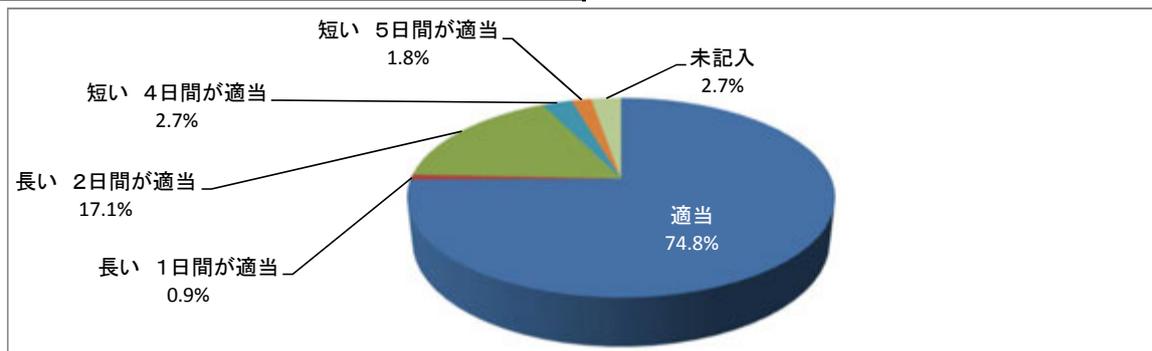
3 三日間の講座内容はどうでしたか。

	人数	割合
非常に満足	60	54.1%
やや満足	40	36.0%
どちらでもない	3	2.7%
やや不満足	2	1.8%
不満足	0	0.0%
未記入	6	5.4%
合計	111	100.0%



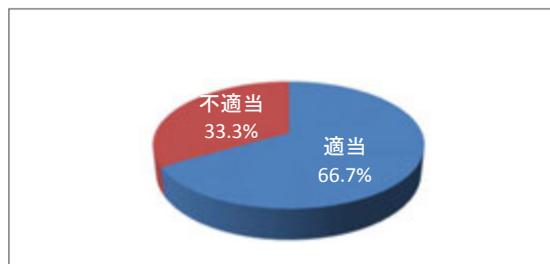
4 本講座の開催期間:3日間という日程はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	83	74.8%
長い 1日間が適当	1	0.9%
長い 2日間が適当	19	17.1%
長い その他	0	0.0%
短い 4日間が適当	3	2.7%
短い 5日間が適当	2	1.8%
短い その他	0	0.0%
その他	0	0.0%
未記入	3	2.7%
合計	111	100.0%



5 本講座の開催時期:12月中旬という日程はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	74	66.7%
不適当	37	33.3%
未記入	0	0.0%
合計	111	100.0%



<適当>と思われる主な理由

・4月から交通安全教室が混雑し教室が一担落ちつく時期が11月後半からなので丁度良い時期と思われる。
・年内の業務の見通しがほぼ確定している為。
・どの時期であっても同じだと思う。12月は指導のスケジュールがつかまっていない時でありがたかった。
・交通安全関係の大きなイベントも一段落しているし、季節がよい時はイベント等も多く忙しいのではないかと。
・冬休み前で、学校の行事も終り一段落する時期なので。
・年度当初より開催日が確定しているのですから、年中のいずれの時期でも変わりありません。
・忙しい時期ではない。業務に慣れてきて、疑問点や改善する点が自分の中で明確になってきていた時期なので。
・春・秋は講座が集中している他、交通安全運動もあるため夏か冬の開催が適当であると思う。
・豪雪地で小中学校の屋外での自転車教室が無く、又、保育園等での交通安全教室が比較的少ない時期である。
・毎年初め(4月)は行事が多く慌ただしいため。(12月は行事も少なく長時間職場を離れても大きな支障はない)
・夏休み前は交通安全教室の回数も多いため、今の時期だと重ならず参加させて頂けるので良いと思います。
・12月と言う事ですが、休み前で交通面で一番いい時期と思いました。
・12月は交通安全教室や高齢者自転車講習会などの行事が少ない時期で研修に参加しやすい。
・自転車教室も落ちつき、幼保の教室も発表会等で少なくなっているので無理なく参加できたから。
・年末年始の交通安全運動期間中であり、1月から交通安全教室も増えることから、実践的な講座はとても参考になり、すぐに生かすことができると考えます。
・年末という事もあって交通指導の活動が少ないので参加しやすいと思う(年末年始の交通安全期間はありますが街頭指導だけなので)年内の状況も分かるので良いと思います。
・雨等が少なく、東京での開催は適当。
・暑くもなくあまり寒くもない。又、雨にもあわずよかった。
・この時期になると、講習依頼やほぼ終了しているから。

・業務(啓蒙、啓発等)は比較的季節の良い時期が多く、年末ではあるが参加しやすい。できれば繁忙期前だとより研修効果が出やすい。
・年末にかけ交通事故が増えてくる傾向にあるため、指導員自身も改めて交通安全意識の向上が出来た。
・県外から来ると冬場は荷物が多くて少し大変ですが、4月などは交通教室のため忙しいので、他県の方も含め業務に支障がない時期なら良いと思います。
・交通安全教室(幼稚園等・小学校)が入っていないため。
・学校の休み時期なのでよいと思います。

<不適當>と思われる主な理由

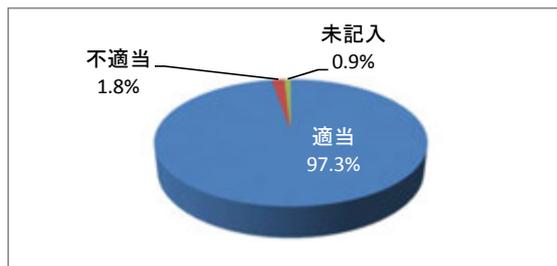
・12月上～中旬は特に気象状況が不安定であり、特に当日移動ですと、高速が不通になったりJRが運休(日常的に起こる)時間が読めず、NAVITIME等で示される時間より2～3時間早く出発することとなり、家庭を持つ身としては非常に大変だったからです。東京は好天でしたので想像できないのもわかります。前泊など移動に余裕を持たせてもらえるか、雪の降らない時期がよいです。
・飛行機の場合など遅延・欠航などが発生しやすいため。
・天候不順、雪など交通手段の不安が多いから。
・冬は空路で来る人、陸路で来る人の天候によって左右されるので、夏・秋に開催してほしい。
・冬の交通安全運動が始まる時期なので、もう少し早目にしてもらえるとすぐに反映できることも多いと思います。
・青森県、行きも帰りも天候のため道が悪いです。せめて10月が良いかと思えました。
・12月は一年の中で一番忙しい(自分にとって)時期だったので。体調管理も大変だった。(東北地方なので)
・個人的な事情だとは思いますが、本職が行政職のため予算編成の時期と重なって大変苦労しました。
・年末でもあり、また月・火・水ではなく水・木・金の方が、遠方から来た私にとって都合が良かったです。
・12月は何かと忙しく、特に12/1～12/14冬の交通安全運動と重なるので、できれば11月に実施の方が良いと思う。
・天候により交通機関が乱れたり服装も厚手となるため荷物が増える。
・年末の交通安全期間中なので、1ヶ月位前が良いと思います。
・年末の安全運動期間前、事前準備期間であったため、参加について考えた、迷った。
・交通に関しても行事が多い。又、季節柄天候や体調管理の点で調整しにくい。
・年末ということ、他業務もある為もう少し早くして欲しい。
・雪の季節で交通事情により来られなくなる可能性があるのも、それと今の時期は教室が忙しい。
・秋頃がいいのではないかと思います。年末は各行事があつて多忙だと思うから。
・北海道は天候が悪いと当日入りが大変です。ご迷惑をお掛けしてしまいますので雪でない時期だとありがたいです。
・12月は雪の関係で毎年飛行機が遅れたり、トラブルもあり本当に困る。毎年開催時期の見直しをアンケートに書いているが(北海道)変わらないのでしょうか。
・交通安全運動期間を外してほしい。1～3月頃がよいのではと思います。
・11月下旬か、12月上旬が良いです。

<適當と思われる時期(月)>

・1月～3月	・9～10月
・5～10月	・11月中旬～下旬
・6月	・11月
・7月	・12月初旬～中旬
・7,8,12,1月	・12月初旬
・5～10月	・12月下旬、10月
・8～10月	

6 本講座の開催場所:東京都・市ヶ谷駅近くという場所はいかがでしたか。

	人数	割合
適当	108	97.3%
不適當	2	1.8%
未記入	1	0.9%
合計	111	100.0%



<適当>と思われる主な理由

・とても便利な場所で、移動もし易かったです。
・東京駅からの距離も程よく、市ヶ谷駅からも迷うことなく辿り着けたから。
・ホテルや飲食店が多く便利でした。
・都内(東京駅)アクセスが良いと思いました。遠方からの参加者も居たので場所的に良いと!
・駅に近く分かりやすく、周りの景色もとっても良かった。
・地方から来る人にとっては、東京駅から近い場所は都合が良い。
・地方から参加の身としては駅が近いのはありがたい。
・自宅からも交通の利便性が良いため。
・交通の便、駅の近く(当会場)が良かった。
・駅の近くで便利。市ヶ谷も特に不便を感じない。
・新宿駅、東京駅共に近くアクセスしやすいので乗り換えもスムーズで迷いませんでした。
・他府県からの受講者の方々のことを考えれば適当かと考えます。
・駅から徒歩でもすぐで分かりやすい場所で良かった。
・東京都内であれば、どこでも便がいいので適当です。
・駅から近くて助かりました。東京駅からもアクセスが楽でした。
・東京を1人で移動するのは初めてでしたがスムーズに来ることができました。
・JRで移動しやすい、乗り換えも少なくよかったです。
・全国から受講者が居る場合は中間地点となるから。
・駅も近く、ホテルがついているのはありがたかったです。
・利便性に富む点です。(全国的にもアクセス等において)
・新幹線を利用するので、東京駅に近く便利だった。
・東京駅からも来やすく、今回のアルカディア市ヶ谷は駅からとても近くてよかったです。
・駅に近く会場わかり易かった。全国から集まるのは大変なので2会場をしても良いのでは。
・空港からも行きやすくありがたかったです。

<不適當>と思われる主な理由

・空港からのアクセスが悪い。
・四谷の方が鉄道の利便性が良いと思います。

7 本講座で受講した内容を今後活用したいと思いますか。

	人数	割合
思う	105	94.6%
思わない	1	0.9%
未記入	5	4.5%
合計	111	100.0%



< 思うと答えた方、今後どのように活用していきたいとお考えでしょうか。 >

・受講した“交通安全指導における効果的な話し方”では、交通教室時はもちろん、現場、日常において人と関わる際に活かすことができそうです。警視庁、内閣府、各事例にあった自治体のHPも参考にしたいです。
・指導する上で、受講した内容を取り入れて、現場で活用していきたい。
・話し方、目線、そして知識。再確認でき改めて努力しようと思った。
・手作りの教材をまねて、作りたいと思った。
・高齢者に対してはまず話し方から心がけてみたいと思います。幼児向けには紙芝居の練習をしたいです。
・「こういうことを全国の人たちと学んできました」と報告し、村の現状と照らし合わせて変えていけることや、取り組んでいけるものはやっというと思います。
・交通安全教室、出前講座で活用し、実践したいと思う。
・指導における効果的な話し方が大変参考になった。実際の教室で使っていきたいと思う。(自転車等)
・人に対して話す時の話し方がとても勉強になりました。(苦手だったので)
・相手が納得できる指導をするために、今回学んだことを活用していきたい。
・効果的な話し方を実践して行きたい。紙芝居での声の出し方についても早速教室で行いたい。
・日頃の自分の言動や姿勢をもう一度見つめ直し、正しい言葉づかいやしぐさなどこれから意識していきます。現場で使える実践的な所は交通教室にとり入れていきます。
・特に幼児向けに飽きさせない工夫を学びました。
・効果的な話し方はすぐ取り組める内容で実践してみようと思いました。
・現在、交通教室に出張するための教材が不足しているため是非活用したい。今後も参加できれば(任意:なかなか難しい)してみたい。
・他県の皆さんが活用しているのを利用させて頂き、又本講座でのお話を十分に理解し活用させて頂きます。
・特に交通教室等で活用したい。聴く(耳・目・心)+口(言葉)と付け加え話を組み立てたい。
・今回受講に対し他県にくらべまだまだ色々な面で少ないと思います。今後の活動する機会があれば私としては多いにやりがいがあります。
・自分たちの活動に内容をアレンジしたり、一部を取り入れたりしていけそう。知識や技能を蓄えることは大切。
・職員との共有。今後の活動の目安として。
・効果的な話し方、特に吉野美智さんの動きながら立ち位置をかえて話す。交通安全教育のデモンストレーションでの話をする前の導入方法など、ためしていきたい。仕事にもどり、他の人にも伝えたい。内容だけでなく、交通安全に取り組む姿勢など。
・教材の作り方、使い方などを活用して行きたい。「交通安全指導における効果的な話し方」を参考にして話の組み立て方を考えていきたいと思う。
・交通安全講話を考える時の参考にしたい。
・実際の安全指導に大変に役立つと感じた。
・本講座の中で、効果的な話し方が一番有効であると思いました。又いきいき講座も取り入れたいと思いました。
・各自治体が体制が違うので自分の市町村の取り組み方がのんびりしているように感じたので、もっと何か出来る事があるのではと思いました。
・効果的な話し方については、日常の全てにおいて摘要が可能なので。
・講演での効果的な話し方や内容の構成についてはとても良い勉強になりました。自分の授業に取り入れたいと思います。
・交通安全講座を通じて、話し方など活用できる部分は積極的に活用したい。
・保、幼稚園、又、小中学校での交通安全教室に活かしたい。
・人前で話す際に効果的な話し方を意識したいと思います。
・地域の長寿会等で交通安全教室を開催していきたい。
・来年度県内各地で実施する幼児高齢者向け教室の内容や実施する時の話し方に活用していきたい。
・効果的な話し方や紙芝居のやり方など、ふだんの教室で実践してみたいと思いました。
・他府県の意見等は、自分の所にはない項目に注目し耳を傾ける事が出来たので参考していく!
・地域のサロンでの教室に活用したい。
・発表されたものなど、使えそうなものを仲間と検討し活用していきたい。
・課内において今回の研修で学んだことについて情報共有したい。

・効果的な話し方でより分かりやすい安全教育をしたい。
・交通膳教室の中で人にわかりやすく伝えるために活用していきたい。
・交通教室や街頭での指導・広報にて今回学んだ相手に伝わりやすい仕草や話術を活用し、効果的に交通安全の輪を広めていけるようにしたい。
・話し方、視線の向け方等勉強になりました。
・同じ指導内容であっても、話し方、見せ方によって変わるため実践しながら身につけたいと思う。
・他の都道府県の方たちがどのように指導されているか、色々と聞けたので良い部分を取り入れたいと思いました。また話し方も普段子供たちの前で話す時に活用させて頂きたいと思います。
・効果的な話し方は多くの方々の前で話す機会がある時に活用したい。高齢者に交通安全教室等を実施する時に活用したい。
・各地区で活躍されている方々の話が聴けて良かった。今後の活動にいかしたい。
・声と表情です。毎日の生活の中にも活用出来ますね。
・日々実施している啓発活動を改良したい。
・本市は警察のサポート的な役割だが、可能な場面で役立てたい。
・すべて少し、自分達風に手をくわえて活用していきたい。
・教室のネタになるお話がたくさん聞けたので、みなさんの話を参考に新しい教室の内容を作ろうと思います。
・何百人も相手に交通安全講話をすることもあるので、今後視点法も活用したいと思います。
・交通安全教室での話し方や、紙芝居等の演じ方などすぐに実践できることからやってみたいと思います。教材の工夫の仕方も今後取り入れていきたいです。
・私達の所は安全指導員の方の指導を受ける事は無く、今後活用して指導を一緒に行いたい。
・毎年マンネリ化しないように、教室のシナリオを工夫している。
・効果的な話し方、話の組み立て方など教室をする上でとても役に立ったので大いに活用したいです。
・小学校の交通安全教室や高齢者の教室にDVDや資料の説明だけでなく“視覚”に訴えていきたい。
・自分の教室での態度等はすぐにでも今回の講座内容をとり入れよいものにしたい。他県の方の考えや教室の内容等も自分の教室と組み合わせよりよいものにしていきたい。
・いつもDVDを流していた時間に紙芝居に挑戦してみようと思いました。又、会話のテクニックを使用することで、より自信を持って指導にあたる事ができると思いました。
・高齢者の交通安全教室をしていないのでこれから計画していきたいので思考整理術のロジックツリーを用いたスピーチトレーニングはすごく勉強になりました。ぜひ活用していきたいと思います。
・活用したいと思うが、あまり活用の場がない。
・人への伝え方・何を伝えるか明確にする。
・人との話し方などは、指導するうえでも大切に活用していきたい。
・交通安全教室を行う中でより分かりやすい話し方、教材作りを工夫して活用していきたいと考えています。
・実際の教室に早選手遊びなど取り入れていきたい。
・子供により興味をもってもらえるような教材。
・効果的な話し方の中で、思考整理術は非常に参考になりました。いつもその時の雰囲気話していましたが、論理の木は活用したいと思います。
・各支部に発表し報告を兼ねて、自分の支部でも教室などで活用していきたい。
・指導する時の自身の態度、声に気をつける。視覚、聴覚に訴える事を頭におき、話を続ける。
・幼児向けの話し方等勉強になったので教室で活用させていただきたいです。
・自分の講習に話し方やいきいき講座で学んだ事を実践していきたい。
・地域(自治会、子供会、老人会等)に対し、講座等に活用したい。
・来年の交通指導者の北区全体会議(仙台北警察署交通課「自転車の交通ルールと罰則」に準じて)で今回の養成講座で隊員に説明する時間をいただいています。“効果的な話し方”で組立てていきたいと思いました。又、公文の学習療法センターに呼びかけて高齢者に啓蒙していければと思っています。
・テキストなど本市でも活用できるものがありそうでした。
・話し方や内容・表現方法の工夫できる点をたくさん見つけたので、実践していきたいと思った。

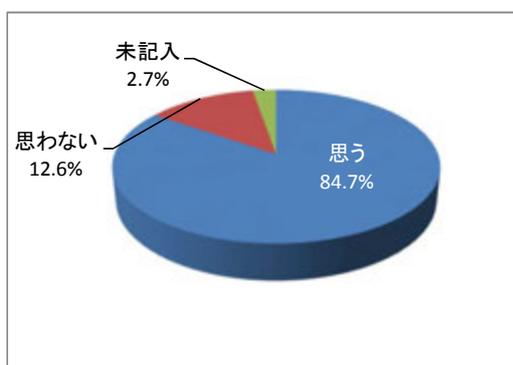
・紙芝居の読み方などは実践できると思いました。
・講話を行う際に参加者への視線や話し方等を今後活用していきたい。
・話し方を分かりやすく、おもしろく伝えるために活用したい。
・声のトーンとか2日目で話し合った事を今後の交通安全教育につなげていきたい。
・他の参加者の方がどのような活動をしているか分かり、参考にさせていただきたいと思いました。
・話し方や目線を変えることで、より効果的に聞いてもらえると感じました。
・「ロジックツリー」を用いて、日頃から安全教育担当者として伝えたいことを整理して活用したい。
・話し方の間だったり大変勉強になった。
・幼・保・小の交通教室において受講者の実態に更に寄りそった話し方の工夫や教材づくり、園・小との連携などとてもたくさんの方の気付きをいただきました。参加者のみなさんに負けぬよう努力してまいります。
・子供達の安全教室に使えるような技術やアイテムを多く知ることができたので、安全教室で使いたい。
・児童を前にして話す時の心得が再確認され上手に話せる様にする。

〈思わない〉と答えた方、その理由

- ・活用する機会がない

8 機会があればまた、本講座を受講したいと思いますか。

	人数	割合
思う	94	84.7%
思わない	14	12.6%
未記入	3	2.7%
合計	111	100.0%



〈思わない〉と回答された方の理由

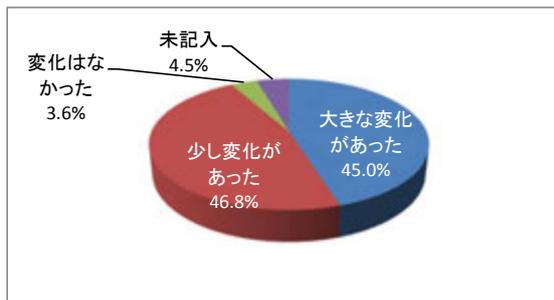
	人数
参加する機会がない	4
参加するほどの内容がない	0
その他(*以下内容)	10

その他の内容

・もっと、まだ受けていない全ての人に受けてもらいたいから。
・私の他の人にも参加してもらって、意識改革が必要かなと思うからです。
・次回は後輩に参加させたい。
・今回の内容は大変濃く満足した。東京に3日間出張することが大変である。(家庭のことがあるので)
・他の者に参加させたい。
・一回で充分です。
・私自身が高齢者の仲間入りすることから。
・多くの方が参加したほうがよいため。
・北海道で開催であれば参加したい。3日間も子どもをおいて東京にくるのはつらい。
・今回と講座内容が違うなら参加したい。

9 本講座を受講して、意識に変化はありましたか。

	人数	割合
大きな変化があった	50	45.0%
少し変化があった	52	46.8%
変化はなかった	4	3.6%
未記入	5	4.5%
合計	111	100.0%



<「大きな変化があった」「少し変化があった」と回答された方、具体的にどのような変化でしょうか。>

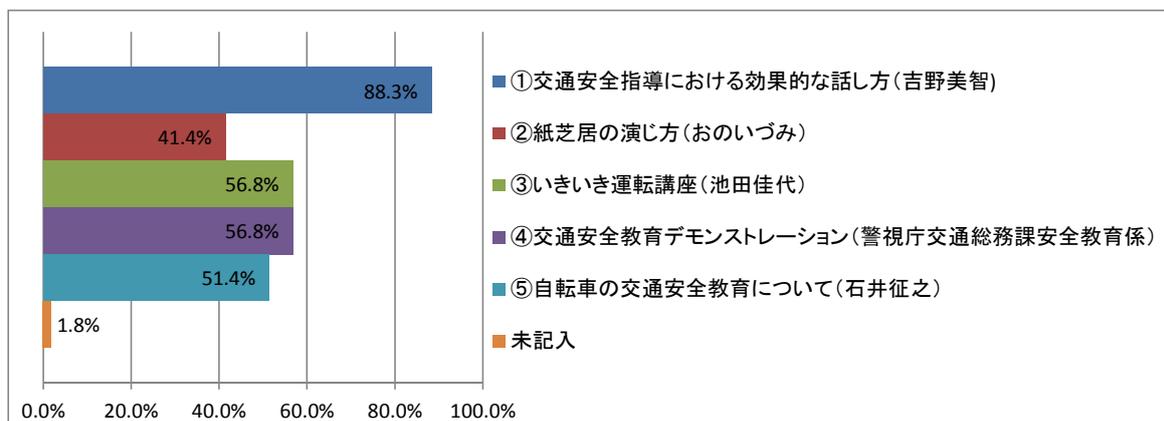
・指導するという立場である以上、知識の積み重ねや勉強を重ねていくこと、新しい情報も取りにいき教室を受ける方々によりわかりやすく、納得してもらえよう努めていきたいと思いました。
・業務する際に、自信がなかった事や疑問に思っていた事などが、正しく学ぶことができたので。
・各地域の皆様の姿を見、話を聞き、自分も負けないう頑張ろうと思った。
・他の自治体の方々が、工夫して交通安全教育をしていることがわかり、もっと自分たちもできる事があるのを知った。
・日本全国から様々な性別・年代を超えた方達が集まることで、交通安全指導の方法も多様であることを実感できました。自分より若い方達が一生懸命活動している姿を見て大変励みになりました。
・地域ごとに同じような悩みがあったり、そうでなかったりしたことがわかり、自分の地域の位置が分かりました。
・これからも新しいことを取り入れて、実践していきたいと思った。
・他の自治体の方々の情報や、講師の方々の講義が大変参考になったので、どんどん活かしていきたい。
・自分は対話に自信がなかったので、効果的な話し方が勉強になりました。
・他地域の活動を学び、まだ取り組むべきことが多いことに気付いた。
・子どもの前に立つ時はいつも見られている。良い見本となれるよう心がけていきたいです。他県の皆さんとも交通安全についてお話ができた、熱心に活動されている姿を見ることができとても良かったです。
・他の地域の方々の活動内容を教えてもらい、良い刺激をいただいた。グループディベートにより、改めて気づかされた事が多かった。
・人前で話すときの心構え、方法が分かったと思う。これでもっと伝えたいことが伝わればいい。
・教室を行う際のカリキュラムの組み立て方をより明確に目的を持って構成できる方法が分かった。
・交通教室への資料作りが容易になった。他の交通指導員とお話できたことは、同じ仲間として交流が深められ、どのように子供達へ教えることができるか勉強になった。
・紙芝居に対する考えが変わった。心を育てるには良好の教材である。
・高齢者の反射板一つにしても着ける位置などおおいに参考になりました。
・指導員としての責任とやりがいを感じた。
・なかなか効果が実感できなかったが(自分たちの活動の)、皆もそれは同じで地道に続けることの大切さについて共有できたので少し前向きになれた。
・有意義な情報が得られた。他県の取組が参考になった。
・効果的な話し方の中で「指導者の一言は人の一生を左右する」とあり、なにげなく言ってしまった一言で、相手に大きな影響をあたえてしまうので、より一層責任を持って取り組みたいと思います。
・交通安全の話をする場所について、他地域の方の話が参考になり、自分達も積極的に行動をしていく必要があると思いました。
・車を運転する時に、もっと気を付けようと思った。人の命を守る大切な仕事をしているという意識を強く持ち、日々努力していきたい。
・他の参加者の方法が参考になった。
・7年前より高齢者の交通安全教育の必要性が高まり、質が向上している。
・正直なところ自分たちの安全教室がマンネリ化していたような気がしました。みなさんの安全教室への取り組みに刺激を受けました。
・自治体によって立ち位置、取り組み方の違いがあり、今までの活動が朝の立哨が主で、それでいいのかと考えさせられました。
・自分の活動や伝えている内容がこれで大丈夫か不安でしたが、方向性はそれで良いのだ、と確信が持てました。
・その道のプロの講座を聴講し、自分の知らない視点を沢山学ぶことが出来た。まねできる事はまねしたい。
・マンネリ化しているので、ゲームや小道具を使って工夫してみたい。
・グループ討議の際に、他の地域の取り組みを聞き、とても参考になりました。いろいろな視点からの意見が聞けて、勉強になりました。

<p>・興味を持ってもらうためには内容の前に話し方、見た目も大変重要である、ということを知った。これまではなんとなく「分かりやすく伝えたい」と思っていたが、根拠が分かったのでより取り組んでいきたい。</p>
<p>・ふだん何となく自分の中で目標や目的をもって取り組んできましたが、内閣府の方が「大切だ」と思っていたり、きちんとした指針があると知ることができて、今後自信をもって取り組んで行こうと思いました。</p>
<p>・街頭指導であっても、声のトーンで相手の心をつかむ事ができるかも知れないと思った。</p>
<p>・始めて知った事があったので(割とたくさん)、自分ももっと色々勉強したいと思った。自分に自信をつけたい。自信がつけばもう少し上手に教室が出来ると思った。</p>
<p>・基本的なことの確認と、新しい発見があったため。</p>
<p>・全国で活躍している面々に負けないよう頑張ろうと思った。</p>
<p>・伝えるだけでなく、聞く姿勢も改めたいと思った。</p>
<p>・自分とは違った考えや意見を知ることができ、幅が広がったため。</p>
<p>・講義や他県の方との意見交換により、最終的な目標は同じであってもそれまでの段階で様々な“交通安全”の伝え方がある事を学んだ。良いと思った事を吸収し、今後自分が行う講習等で活用したい。</p>
<p>・講師の先生はもちろんですが、経験や地域性の違いにより視点も変わるため、解決策が分かったり新たな発見があった。</p>
<p>・自分たちが普段行っているのが当たり前ではなく、他県の方の話、展示を見て刺激をいただきました。指導の仕方も様々で、見習いたい部分がたくさんで自分はまだまだ勉強不足ということを感じました。今回のことを持ち帰り仲間と共有して成長していきたいと思います。</p>
<p>・自分自身の運転(慣れから少し横着になっている点)を改めたい。交通安全活動が大切であることが理解できた。</p>
<p>・人と人とのつながりの大切さを痛感した。</p>
<p>・地域は代わっても交通安全は皆の願いです。</p>
<p>・自分自身の顔、声、身体の強弱、高低、明暗、大事な事。自分自身思いよがり等色々反省させられました。</p>
<p>・伝え方や方法を工夫するだけで相手に伝わるイメージが大きく変わるということが分かった。</p>
<p>・他の都市の方の意識の高さに刺激された。</p>
<p>・他の市の講習会を見習って行きたいと思いました。</p>
<p>・環境を理由にして、自分の中で「これはできない」と決めつけていたところがあったが、同じような環境でも工夫次第でいろいろなことが可能になるということがよく理解できた。</p>
<p>・幼児教室、高齢者の交通安全教室に行った時の効果的な話し方、接し方についてすごく勉強になりました。自分が問題にしていたことに対して、答えが出たような気がしました。</p>
<p>・今回いろいろな指導法や現状課題について勉強になったところはもちろんですが、全国で活躍されている交通指導にかかわられている方々のお話を聴かせていただけたことで、もっとがんばらなければと思いました。これからも効果的な指導方法や工夫の仕方などいろいろな面から探っていこうと思います。</p>
<p>・夜光反射板の使用法、人との話し方、相手の気持ちになってしっかりお話を聞く。交通安全指導を通じ地域民への交通安全の意識を高めるようにしたい。</p>
<p>・他の県の方と交流が持てた事で、各々の教室のやり方、考え方がよく分かり、とても勉強になった。</p>
<p>・高齢者の交通安全教室に参加してもらった人に「楽しかった」「次回も参加したい」と言ってもらいたい。参加できなかった人達にも「参加してもらおう努力をしたか？」自問自答の変化。</p>
<p>・これでいいのかと不安に思うこともあったが、これでいいんだと自信につながる意見を聞いたから。</p>
<p>・意欲的な参加者の様子を見て、刺激を受けることができました。より指導者としての立場を意識しつつ、取り組んで行こうと思いました。</p>
<p>・県外の活動内容を聞いて意識が足りないと感じましたし、特に高齢者の交通安全教室を行っていると言うか力を入れている事が分かりました。私達の市でも問題とされている課題ですがもっと行動しようと思います。(指導員も少ないので話し合いをして活用したいと思います)</p>
<p>・グループ討議の中で、内容をほり下げての対話が出来た。そのため、違う角度からも考えることが出来た。</p>
<p>・自転車の安全運転指導のし方の考え方が変わりました。道交法を正しく伝える。</p>

・吉野先生の効果的な話し方は、私にとって心に残りました。人の心に入る言葉は大切だと感じました。又、紙芝居などやったことはありませんが、おの先生の声の出し方はすごいなと思いました。何ごとやる気だなと感じました。
・自分が今回学んだことを地域全体に広めるために、交通安全に対する意識をもっと高めていけるように知識を身につけていきたいと思いました。
・まず話す場合のロジックツリーやグループ討論を通し、高齢者自身に考えさせ結論を出させる。「いきいき運転講座」は今後やってみたいと思いました。
・自分自身も、もっと交通ルールを意識するべきだと思いました。
・指導する時の心構えを見直すよい機会となりました。慣れにつれ“伝える力”が弱くなってきていたのかもしれないと、改めて考えさせられました。幼児、高齢者の特性を考慮する。そこから再スタートしたいと思います。
・他地域の方の取り組みを聞いて新しい内容を取り入れていきたいと思いました。
・全国の皆さんとのグループ討議でいろいろな意見を聞いて参考になり、これからの仕事に意欲がわいてきました。
・最後の石井先生の自転車の講座が非常にわかりやすく、自転車への知識が増えた。
・効果的な話し方や、いきいき運転講座により大分変化すると思う。
・講座等の進め方、内容等に参加すべき所が多く今後の活動に役立てられる。
・自分の思い込みや凝り固まった意見が周りの方の意見を聞く事により、考え方の向方づけられない方が良いと思いました。
・自治体により取組窓口が違う事。また温度差もあり大変興味をもちました。一般的に被害者(目線、意識)が強いけれど加害者になった時、その時から人生が一変してしまうという話を伺って頷きました。それ故に交通安全ルールの大切さを訴えていますとの事、そのお話は目からウロコでした。
・座学だけの教室でなく、導入やゲーム「いきいき」とさせる工夫が必要だと感じました。
・交通安全教育を通して子どもたちとふれあうことは、子どもたちの成長にも影響を与えるものであり、大きな責任と同時にやりがいを感じると思った。最後の石井先生の講座の後、改めて身を引きしめて取り組んでいこうと思った。
・正直、交通安全指導員としてあんまり交通安全意識がなかったが、全国の指導員が子どもや高齢者から命を守るプロとして活躍しているのを見て、自分も県民のためにがんばらなきゃいけないと思った。
・講話での話し方や教材など参考にしたい部分が多々ありました。又、交通ルールの再確認もすることができました。
・人の前で話すことへ緊張感が少しなくなったように思います。
・もっと目的意識をもって、安全教室に取り組みたい。
・自分たちの実践に足りない部分に気付かされ、講義や討議で解決策が見えた部分もあった。
・今自分が知っていることが全てじゃなく、全国の様々な人と話すなかで多くのアイデアに触れることができた。
・要点を絞って中学生に話すようにし、日頃から前向きな言葉で話をする事。

10 どの講義が役に立ちましたか。(複数回答可、敬称略)【回答母数:111件】

人数	人数	割合
①交通安全指導における効果的な話し方(吉野美智)	98	88.3%
②紙芝居の演じ方(おのいづみ)	46	41.4%
③いきいき運転講座(池田佳代)	63	56.8%
④交通安全教育デモンストレーション(警視庁交通総務課安全教育係)	63	56.8%
⑤自転車の交通安全教育について(石井征之)	57	51.4%
未記入	2	1.8%



11 具体的にどんな点が役に立ちましたか。【*抜粋】

<p>・特に、紙芝居での声色のつくり方(音階で声色を作る)、紙芝居のつくり方。警視庁の方が見せてくれたからくりボックスとその作り方等実際に使われている教材や作り方が参考になりました。事例発表も参考になりました。</p>
<p>・正しく指導するだけではないことなど、理解することができた。どうすれば交通ルールを守ってもらえるかなど、工夫しながら会話などでコミュニケーションしていくことなど。</p>
<p>・事例発表や実技の部分がすごく参考になった。</p>
<p>・他の県の取り組み。「人は人が育てる」ということ。同じように交通安全を目指す志のある方の話が聞けたこと。</p>
<p>・紙芝居の演じ方の講座が特に役に立ちました。迷っていたことがこの講座により解決しました。事例発表で教室のネタをみつけることができました。</p>
<p>・「交通安全指導における効果的な話し方」が大変役立ちました。人前で講話する時のテクニック等が学べた。各市町村の事例報告が役立ちました。「自転車事故防止のために」講話は大変役立った。</p>
<p>・効果的な話し方、一点ばかり見るのではなく、視線をZ方向に動かして、聞いている側の顔も良く見て「結論から話す」が勉強になりました。</p>
<p>・伝え方の細かい所まで意識していなかったのが、今回の研修ではそういった分野を学べたのは有意義だった。</p>
<p>・技術的な面での講義が多く、とてもためになるお話ばかりでした。</p>
<p>・吉野美智先生の講座がとても良かったです。交通安全指導に関わらず、これからの生活に大いに役立つと感じました。笑顔を心がけ、一人ひとりの人との関わりを大切にしていきたいと思いました。また話す時も思考整理術を意識しながら、相手にわかりやすい話し方を心がけていきたいと思います。</p>
<p>・警視庁の方のデモンストレーションが勉強になりました。“不思議な指”と“もしかめ体操”はすぐに教室で使いたい。</p>
<p>・どんな教室(カリキュラム)でもロジックツリーを活用し指導することで子どもたちにより分かりやすく伝える事ができるようになるのではないかなと思う。ぜひ取り入れたい。</p>
<p>・受講した全ての講座分りやすいお話で、とても良かったと思います。</p>
<p>・受講者(高齢者、幼小児)の異なる方々に対応した心がまえ、言葉等々良かったです。</p>
<p>・グループ討議は悩みを共有できたり、実際の活動のアイデアを共有できたりとても実りが多かった。</p>
<p>・参加された方々の交通安全教育への意欲に刺激を受けた。「自転車の事故防止のために」の講義が大変参考になった。</p>
<p>・自分の印象、目線など実践していきたい。紙芝居の下読みはしていたが、感情は考えていなかったのを考えるようにしたい。いきいき運転講座の内容を高齢者交通安全教室に取り入れようと思う。自転車の事故でも大変なことになることがわかりました。</p>
<p>・話し方のお話といきいき運転講座を実際に使いたいと考えています。とても参考になりました。</p>
<p>・警視庁の交通安全教室の実施方法を活用したいと思います。</p>
<p>・すべての講座が即実践したいと思う内容でした。</p>
<p>・討議では、安全教室をどのようにやっているかの話もありました。工夫をしていて刺激されました。</p>
<p>・人前で話をする機会が多くはないので、話の導入方法、あきさせないで話を聞いてもらうテクニック等、なるほどと思う事ばかりでした。今まで伝えたい事が相手の方には良くわからなかったと思います。話の組み立て方、終り方等、とても参考になりました。</p>
<p>・他人とコミュニケーションする全てにおいて、吉野先生の「効果的な話し方」は必要であり大切なこと。実践を心掛けたいです。</p>
<p>・「交通安全は家庭から」「生活習慣が全ての非行につながる」by石井先生の言葉が印象的でした。別な角度からアプローチすることも考えようと思います。</p>
<p>・効果的な話し方はカウンセラーとしての視点が入っている点がよく講師の方が効果的な話し方を実施しておられてその効果を実感した。いきいき運転講座は、資料は見たことあったが使い方が分かり自分達もやってみることで教育効果の高さがよく理解できた。警視庁のデモンストレーションは新しい教室のネタを知ることができ活用したい。</p>
<p>・話し方で印象がこんなにも変わるのかということや、声の出し方など。</p>
<p>・効果的な話し方、目配せ方、他の皆さんの交通教室がどうやっているのか。</p>
<p>・話し方や伝え方を知ることができ良かった。人の心をつかむことができるようになりたいです。</p>
<p>・グループ協議や事例発表にて他県の方と意見交換をする事により、いろいろな視点からの交通安全に向けた教育方法を知る事ができて良かった。</p>
<p>・話の内容は自分の見た目、声の印象が悪いと伝わりにくくなるのがわかりました。今後の交通教育の場で意識します。</p>
<p>・話し方講座では普段から様々な方に接する際にも役に立つなあと思いました。もちろん教室でもですが、子供たち、大人、違う対応の仕方を具体的に教えて頂き良かったです。からくりボックスは帰って作って幼稚園で使ってみたいと思いました。自転車の事故防止のための石井先生のお話で改めて自分がしている仕事の大切さを感じることができ、これからもっと気を引きしめていきたいと思いました。</p>

・紙芝居でも話し方(読み方)でいろいろと表現できるということ。話し方で話し手の目の視線のやり方。
・他の人に伝える方法、技術を教えていただき大変に勉強になりました。自分の気持ちを伝えることの難しさを痛感しました。今後に役立てたい。
・相手に伝えたい事柄を心を込めてお話する時、笑顔(目・口角)に気を付けて行いたい。
・吉野先生による「交通安全指導における効果的な話し方」の中のミラーリング、ペーシング、インテマシ、ロジックツリー(倫理の木)・交通安全デモンストレーションにおいて、からくりBOXを使って教室を行っていること。自分達は寸劇で教室を行っているので道具を使用しての講話が参考になった。石井先生の「自転車の交通安全教育について」において、自分の中で意識が大きく変わりました。命に係る仕事であることを自覚し、これから教室を行っていきたいと思います。
・効果的な話し方について、声のトーンや表情、また視線などいろいろ気をつけなければいけないことがわかりました。また交通安全教育デモンストレーションでは、実際の指導を見せていただけたことが今後の指導の中でのヒントになりました。ありがとうございました。
・交通安全=命の問題 交通安全日、毎日生活(特に母親の役割)から心にしみました。
・グループ討議で比較的本音の部分の意見が引き出せたように思う。
・「いきいき運転講座」で自分自身の意識の変化を感じた。「元気な高齢者は事故を起こさない」楽しい交通安全教室にする為の知識をもらった。又、自分の努力の必要性も感じた。
・思考整理術のロジックツリーを早速利用してみようと思います。より具体的で実践可能な事前準備を教えてください。まずは枠にはめた講義を試してみてもより自分のものにしていきたいです。
・思考整理術のロジックツリーを用いたスピーチトレーニング(私は話し方や文章にする事が苦手なのですごく心に残りました)高齢者の方がどういうふうになればより注意してくれるようになるか、自転車の交通ルールは分かっているつもりでしたが更にプラスになる良い講座でした。
・他県の交通安全に関わる方の意見が聞けて、非常に今後の活動に役立つ。
・吉野先生の講座は日々の仕事にも役立つ内容で、ものを伝えるための考え方目くばせ発声法等興味深く拝聴しました。
・幼児や高齢者の方々(聞き手)の興味を引きつける話し方を学ぶことができたのがとても勉強になりました。事例発表で他の地区の教材を見ることができたので、良い所を吸収して自分の地区に持ち帰りたいと思います。
・話し方講座でのオリエンテーションでの交通安全指導を通じて、自己肯定感を高めてあげることが大切なんだなと思いました。笑顔で相手の心に残る指導をすることをきいて、常に笑顔で心がけて指導をしていきたいと思いません。
・グループ討議をすることで各地方の活動や知恵を学ぶことができて良かった。また、それぞれの交通情勢を知ることができ満足。
・前にも書いていますが、ロジックツリーを用いた講話と、いきいき運転講座はやってみたいと思います。又、グループで討議は各県の状況や対応・技法等非常に参考に
・座って話を聞くだけじゃなくて、脳を使い周り意見交換などする所が良かった。
・現在幼児への指導が多いので・・・「演じ方」の言葉が胸にさざりました。≪子供達を惹きつける力&魅せる力≫を発声やミラーリング等を使用しながらつけていきたいと思いました。
・グループ討議で他地区の方が妊婦向け母親教室でチャイルドシートの重要性について話したりすると伺いました。自分たちは行った事がないので新しく効果的に伝わる相手、その時情報を必要としている方を探してみたいと思いました。
・話し方は指導者に求められる実践スキル。いきいきは、ワークシートの活用やビデオ活用、またグループによる考えさせるやり方等々。
・講師の方々の講話術がすばらしく聞き手が反応できる工夫がされていてよく聞く事ができた。
・分かりやすい話し方、人を引きつける話し方を改めて知りました。
・ディスカッションやゲームを取り入れ、交通安全に直接関係ない内容でも参加者を楽ませる工夫がある。
・講習を受講する方に合わせての教育方法や話法を学ぶことができ、すごく勉強になりました。また、他都市の方との意見交換が良かったです。
・幼児にも言葉遣いは気をつけて、指導者として言葉には気をつけていかなければならないということ。
・話を聞いてもらえるように、自分も自信を持って話をする事ができるようにもっと勉強していきたい。
・話し相手には目を見て話し、物を渡す時は言葉や名前・名字を添えてメリハリをつける。

12 今後、改善してほしいところ、また改善策 【*抜粋】

・入り口に教材が展示されていましたが、会の中で紹介もしくはこのような展示がありますよとアナウンスがあると良いのではないかと思います。
・航空券などは、空港でまとめて予約せずに個人個人で予約してほしいです。
・グループ討議、自転車はテーマが大きすぎるので一般(高齢者を含むマナー)と幼児児童向けの自転車教室に分けてもらえたら話をもっと深くできると思います。
・もう少し明るい部屋で研修を受けたいです。
・希望としてコーヒーがあれば嬉しかったです。
・グループ討議の時に自分達が使っている実際の教材を持ちより、イメージしたり参考にさせてもらったりできた方がより実践的で実りある話し合いになると感じました。事例発表の内容が事前に分かると嬉しいです。
・2日目のいきいき運転講座の講師が早口で、進行も早くわかりづらい。せっかくの大事な話なのに理解するのに苦労する。
・座席配置。色々な地域の方と交流し、情報交換できるようにもう少しランダムにしてほしい。また教室(指導)を行う際地域性がとても重要。同じような規模の自治体等が分かればピンポイントで情報交換ができ、すぐ活用できる情報がもらえるから。
・本講座の参加資格は5年以内に指導員になった人にしぼりがある。振り返りがしたい人にも参加資格を広げる。各市町村によってはもっと参加したい人はいると思われる。予算の都合もあると思うが、年1回から回数を増やしてはどうか！
・他の指導員の方がどのように活動しているのか、どんな教材を使っているのか意見を聞きたかった。
・講義も大切ですが、もう一コマぐらいグループでもワークショップ的な活動を入れてもいいのではないかと。
・法規(法令)に裏付けされた講義がもう少し聞きたい。
・受講生は全国から集まっていますので、できれば全体とグループ分け(高齢者・自転車・反射材等)の懇親会を行った方が中味にボリュームがつくのではないかと思います。
・参加希望者の学びたい点、知りたい点を調査し討議のテーマを決めた上で組を分けて欲しい。
・講義が盛り沢山で過食気味です。私としては腹八分目に留めていただき、深く掘り下げていただけたら良かったです。折角素晴らしい先生方においていただくのですから。
・講師先生への質問タイムを5~10分程度その場で設けてほしい。その時でしか聞けないことがある。先生も人間ですから、説明を飛ばすことがあるため質問タイムがあればより良いと思う。
・講座が長く続く場合、トイレ休憩をはさんでほしいです。
・後ろの席からは、スクリーンの半分が見えなかったのを改善していただきたいです。
・グループ討議がもう少し改善されれば良いと思いました。
・もしできるなら各都道府県でもいいし、近い地域を集め教材発表をして参考にしてもらえるのもいいのではないかと考えた。
・地域別に少人数で実施して欲しい。
・様々な分野の方がいるのはいいことだが、もう少し交通教育に直接携っている人が多いと、ディスカッションで自分が求めているものが得られたと思う。
・討議テーマに関して、希望したテーマにあたらぬ。どのテーマも必要だとは思いますが、例えば「高齢者」という大きな一つのテーマのもと、交通弱者、ドライバー、身体特性など派生したテーマを設けより詳しく掘り下げるなど。
・研修生の人員が少し多すぎるのでは…？
・手軽に造れる教材の作る方法を実技で教えてほしい。
・吉野美智先生、もう少し時間(講座の)を増やしてほしい。
・グループワークの発表でまとまっていないグループがいくつかあったので、しっかりまとめて発表できるように導いた方がよい。
・現在私の仕事内容の中では全く行っていないものも講義の中に含まれていて、例えば同時に種類の違う講義を行い、自分の興味のある講義を選んで受講できるとより効果的だと感じた。
・できればグループ討議の時、他のグループの声や音が聞こえて自分のグループの話が聴こえにくかったので、そのあたりを改善していただけたらありがたいなと思いました。
・グループ討議は各地域の環境毎に分けてほしい(都会、中山間地、高齢化率等)
・出席者どうしの交流パーティーのような時間があれば人脈ネットワークの継続が可能ではないかと思う。
・正味2日間で、少し詰め込み過ぎなのでは？と思いました。17時までであるとしんどかった。15か16時に終わっていたら他の県の人とお茶をしたりして交流出来る…そういう時間も大切だと思います。もう二度とこのような規模の研修に来られないかもしれないので。
・事例発表までとはいかないが、活動内容等の写真等の資料を事前にあつめ印刷して参加者に配布してもらえるとディスカッションの時によりわかりやすく話が進めやすいと思った。
・グループの人数が多いために話がまとまりにくいように感じました。グループの数を増やし人数を減らすよう改善すると、よりまとまった意見にそして多くの発言が得られるのではないかと考えます。

・三日目は中休みが多かったので、その時間をつめて早く終われば良いと思う。
・1つの講義の時間が2時間近いものがありました、最長で90分が良いと思います。
・グループ討議の発表時間等が少なすぎると思います。(どのグループもたくさん意見が出たと思いますので)
・ずっと座っている事に疲れました。
・指導者養成講座なので、指導を経験したことが無い人(少ない人)が教えていくにはどうすればよいか、さらに具体的に説明などがあると良いと思いました。
・資料に古いものもあるので、チェックしたほうがよい。
・内閣府の担当者様のお話が15分間のみであったため、可能であればもう少し時間を取って詳しく国の方針についてお聞きしたい。
・事例発表は発表希望する県・地区でやってほしい。やるのであれば最終日でなく初日にやったらどうか。
・高齢者事故防止対策の講座をもっと入れてほしいです。(高齢者の心理や行動特性等)
・どの参加者の方も講話が同じパターンになってしまっているとのことだったので、他県の方とのグループ討議の時を増やしていただいて新しいものを取り入れたらと思います。又、講座に来てくれる人が講話のコツだけでなく新しいネタ等もあれば知りたいです。
・グループディスカッションの時間をもう少しとってほしい。

13 講師へのご意見等 (複数回答可)【*抜粋】

①吉野 美智先生へ

(講座名:交通安全指導における効果的な話し方)

・先生のメリハリの良い話し方、表情から、また横文字の多い会話から良い脳トレになりました。ボキャブラリーが増えました。
・視点法・ミラーリング等、これから実践できそうなところは、すぐに取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。
・先生の話し方が素晴らしい。大変実のある時間でした。
・生活する上でいつも心掛けている事を更に学習させてもらえて良かったです。(実は本研修において一番受けた講座でした。)
・大変参考になりました。私は高齢者、人生経験は長いですが、対子供達への対話もう一度やりなおしです。
・小学生・幼稚園児に交通教室をしているが、集中力をもって聴いている。(話し方・動作(工夫)・熱意がいると思う)
・内容がわかり易かったです。特に先生の話し方、進め方に引き込まれました。先生のような魅力的な話し方が出来るように教えてくださった事を実践して身に付けたいと思います。パワーポイントが無いのが良かったです。
・講義を聞く前は「交通安全教室」における話し方などあまり気にもしていなかったが、参加者の反応や興味などに気をつけ「楽しい教室」の開催にしていきたいと思っています。
・幼児、高齢者に対する話し方、接し方など細かく分かることができ、とても為になりました。今後の交通安全教室で活かしていきたいと思っています。
・視点法を意識して対象者の印象に残るような話をしていきたいと思っています。また普段から話材を集めることをしていきたいと思っています。
・日頃から話し方については気を付けているのですが、吉野先生の話を聞きより意識が高まりました。今後の資格取得のためにも勉強中なので帰ってからも教えて頂いたことを活かし、生活したいと思っています。ありがとうございました。
・高齢者講習会が増えてきたので納得していただけるような話し方を学びました！！
・視点法やロジックツリーは非常に参考になりました。早速使ってみようと思います。
・指導時、なんとなく行っていた行動が「自分の印象を管理する」という点ではまったくできていなかった事に気づく事ができました。ありがとうございました。
・資料P8 7(2)留意点①褒め過ぎ(加減は?)はダメ。先生からお答えいただきました。お世辞にならない程度。
・声のトーン1つで全然印象が違うんだなと思いました。これから講話をしていくうえで笑顔を忘れず頑張っていきたいです。講話が上手で大変尊敬してます。短い時間でしたがありがとうございました。
・効果的な話し方、とても勉強になりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
・主に幼児に対して交通指導をしているので、とても勉強になりました。2時間あっという間にすぎてしまい、もっと話を聞きたかったです。指導者の意識の持ち方、視点の持っていき方をもちいて話をしていきたいです。

②おの いづみ先生へ

(講座名:紙芝居の演じ方)

・声の変化するスピードにビックリしました。パネルシアターや紙芝居などで活用したいなと思います。
・子どものひきつけ方「紙芝居へ」絵を描く勇氣、演じる力など先生の魅力が素敵でした。
・具体的な声の出し方を指導していただきありがとうございました。たいへん勉強になりました。交通安全教室では紙芝居もしますが、寸劇もしますので教えていただいたことを実践に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
・“読み聞かせ”の講習会に出た際「なるべく感情はまじえずに読む」と教えて頂いていた為、先生のお話を聞いてすぐ納得出来ました。大人の私達も先生の読み方に「ハッ」とさせられたので、これからはそのようにして行きます。
・もう少し時間を取って、より深い話を聞きたかったです。
・声の大小、トーン、声色、いろいろ試してみたいと思います。見ている人たちの反応を見ながら、大切なことだと感じました。
・頂戴した資料の前文に「絵本は一人でも楽しむことを前提に作られています」とありました。果してそうでしょうか。幼い子どもが初めて絵本と接する時は「誰かに読んでもらうことから始まります。家庭では確かに紙芝居をわざわざ借りることは中々ないのでしょうが、絵本にも多勢に読んで聞かせることをしますし、ストーリーテリングにおいても同様で、相手が一人でも多勢でも成りたっているのではないのでしょうか。又講義の中で「舞台の右斜めの後方に立ちお子さんたちの様子を見るように」と言われました。私は「演者が声色を使ったり、表情が変わる様子を子どもたちには見せないよう舞台の裏にかくれること、子どもの様子を確かめたい時にはそっと見ることを教わりました。勿論紙芝居の性質や内容によって演じ方が変わることは理解して居ります。随分と生意気なことを書きました。申し訳ありません。おの先生の描かれた紙芝居が素晴らしく、それにも増してお声のいいのに驚かされました。ですから、演じてくださった時に「ああ～お顔が見えなかったらもっと紙芝居に引き込まれたらうな」と感じたのです。そして『交通安全の紙芝居がこんなに沢山あったのですね』これはとても嬉しかったです。ありがとうございました。
・声のトーンで何人もの人物を演じるおの先生素敵でした！
・声優の出身者では…とても上手だった。
・声が素晴らしい。演じるのは少しテレます。(私…)
・私達委員は子供達がこちらに目を向けてもらうためには先生のような高低、強弱、声の明暗大切な事だなアー。私達も一度この紙芝居おぼえよう。
・紙芝居を今活用していないので、今後の参考にしたい。
・少し声優の様な芝居掛かり過ぎかな…と思いました。もう少し自然な感じが欲しいと思いました。
・紙芝居をはじめた途端、引き込まれました。時間はかかるかもしれませんが、いつか自作の紙芝居で教室を行ってみたいと思います。
・紙芝居を使って指導することがあまりなかったのですが、これからは紙芝居を活用してより分かりやすい指導ができればいいなと感じました。
・声色を変える必要はなく、ドレミの音階で声を出せばいいということが大変印象に残りました。今後紙芝居を行う際には意識していきたいと思います。
・後輩が紙芝居を読む時の指導に活かしたいと思います。皆が入りこめるような読み手になれるよう訓練したいと思います。
・紙芝居だけでなく発声練習や導入方法は普段の交通教室や腹話術にも役に立つと思いました。
・発声する事をなおざりにしていた事に気づく事ができました。マイクに頼る前に自分を整える事をしたいと思いました。ありがとうございました。
・先日紙芝居の朗読の講習に参加して来ました。①読み手は黒子(は右横から動じず)に徹する事。反応観客は見ない。②紙芝居のわくは使用する③登場人物によって音程はあまり極端にしない④ナレーションは地声で。おの先生の紙芝居とイメージが全く違います。①～④子供の集中力とイメージを膨らませる。
・紙芝居ひとつで楽しく分かりやすく演じられるものなんだなと実感しました。ドレミファソラシドをこれから意識して子ども達の交通安全教育をがんばりたいです。短い時間でしたがありがとうございました。
・声の変え方、着ぐるみの声を担当したりすることでとても勉強になりました。ありがとうございました。
・複数の人物を演じ分けする事は難しいと思っていましたが、ものまねをする必要はなく、ドレミの音階で演じる事ができると言われたので、やってみたいと思います。

③池田 佳代先生へ

(講座名:いきいき運転講座)

・淡々と語られ、肩がはずりいろいろな脳トレができ、高齢者教室の話など参考になりました。
・同じ班の方の話を聞くのはとても楽しかったです。時間があっという間に過ぎました。この教材を使ってみたいと思います。ありがとうございました。

・だろー運転、なんの為の標識かをはっきりと運転者に伝える言葉など講座の中自分にも伝わりました。自身をもって伝える事が出来ます。
・グループでの話のまとめ方、進め方が勉強になりました。
・一つの課題について、話し合う事の大切さを教えてもらいありがとうございました！再認識しました。
・思わぬ自分の一人よがりか…。新たな欠点、見落としがわかり大変良かったです。
・高齢者の対象の講座があれば活用したい。
・淡々と進行されて、引き込まれる点が少なかったと思います。
・ワークショップやグループディスカッションへ興味がありましたが、具体的な進め方が分からなかったのも参考になりました。
・適確な講習のやり方を学ぶことができたのもとてもよかったです。高齢者に対する交通教室をする機会が少ないので、警察の方や施設の方々と協力して増やしていきたいと思いました。
・グループディスカッションを通して、自分の考えだけでなく、他の意見をきくことで自分が気づいていない部分も知ることができる体験ができてよかったです。
・グループでドライバー、ドライバーでない人の視点で話をすることの大切さがよく分かりました。
・間違い探しは良かったです。
・高齢者に交通安全を実践させることは本当に大変ですが、「いきいき運転講座」は安全運転に限らず大変参考になりました。
・良いとは思いますが、もっとゆっくり説明してみんなが理解できるようにお願いします。
・高齢者の特性をうまく利用しながらの講座の進め方はとてもためになりました。ありがとうございました。
・授業の後半のビデオの中で、交通違反と思われるシーンがあります。1つは自転車2台並進して歩道を通る様子。2つ目は横断歩道に歩行者がいるのに自転車が通行している様子。先生に聞いたところ、ビデオは10年前程前に作られたとのこと。しかし養成講座のビデオとしては相応しくないと思います。改善したほうがよいです。
・ドライバー事故は出合頭事故、安全不確認による事故が多いためしっかり標識をみる、止まれがなくても見通しが悪い所は止まる意識をしていかなければいけないと思いました。短い時間でしたが、ありがとうございました。
・高齢者の安全教室での1つのネタとなりました。ぜひ活用したいです。ありがとうございました。
・高齢者の指導は行っていないのですが、高齢者のコミュニケーション力を高めて自分の事を考えさせることが脳の機能を高める事ができる。同じ様に反発したい年頃にも適用できる。

④警視庁交通総務課安全教育係へ

(講座名:交通安全教育デモンストレーション)

・からくりボックスは作って活用していきたいなと思いました。白バイ隊とってもカッコ良かったです！！
・ハキハキとした話し方、話の転開、そしてかわいいピーポくん、とても勉強になりました。ありがとうございました。
・女性のパトロールバイクや活動がいきいきしていて観ていて楽しかったです。
・実際の教室を見せていただき、ありがとうございました。手作り感いっぱい、安心感と親しみやすさがありました。ピーポくんの声がとってもかわいかったです。
・今後教材を沢山作り(人数分)各交通教室で活用していきたいです。
・これから先、私自身講習などでいえる機会があれば気持ちを楽にして聞かせる。自分もリラックスする事だとも思います。又、児童よりも大人の方が大変だとも思います。
・からくりボックス、チャレンジしました。(作りました)活用できるよう頑張りました。
・多芸多才の人物と感心しました！これからも多くの人達に教育してほしいです！
・幼児、子供、高齢者が気をひくような良いデモンストレーションをされているようで…継続していただければうれしいです。
・今後参考にしていきたい。
・教室に即役立つ事が出来る内容でした。外の実技をする際に「視聴覚に訴える」ことが大切だと知りました。あと、カラクリボックスを作りたいと思います。「アイスブレイクネタ」を検索します。
・とても華やかで、規模の大きなものから小さなものまで見る人を引きつけるすばらしい内容でした。牛乳パック紙芝居、早速作ろうと思いますし、子どもに色々塗ってもらったり等親子ワークショップ等でやりたいです。
・交通安全についての意識を高めてもらえるように着ぐるみや教材を工夫していましたので興味を持ってもらえるような交通教室を自分の地区でもしていきたいと思いました。
・ピーポくんの交通安全教室を見ることができてよかったです。街頭キャンペーン時に、音楽をかけて注目を集めるのは取り入れてみたいなと思いました。
・警察官と仕事をしている身なので、制服姿を見た時に安心感がありました。様々な教材、指導法、とても参考になりました。ありがとうございました。
・バイクからきぐるみまで幅広い活動すごいと思った。
・からくりボックスはすぐにでも取り入れたいと思いました。ありがとうございました。

<p>・日本の第一線として活躍している警視庁の交通安全教育の活動内容を知れて良かった。からくりボックスの中もきめ細かく教材が作成されており工夫されているなと思った。短い間でしたがありがとうございました。</p>
<p>・女性の白バイ隊員の姿がとてまかつよかったです。牛乳パックで教材つくりたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・からくりボックス使ってみたいと思います。場面を変えるのを次何の絵柄だろうと期待させる事ができるので、おもしろいと思いました。</p>

⑤石井 征之先生へ

(講座名:自転車の交通安全教育について)

<p>・とても活用していきたいお話ばかりでした。りんごの木のお話で、私にも子供がいるので子供たちの命を守るという事、大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。</p>
<p>・サクサクとテンポよく沢山の事を教えていただきありがとうございました。「自転車を運転する」指導員に伝え、必ず使うように戻って皆に話します。</p>
<p>・自転車については十分な知識がありませんでしたので、大変役立つ内容ばかりでした。</p>
<p>・交通安全母の会の関係でこの度来させてもらい、何かお話の中で活動のことを話していただきモチベーションが上がりました。「家庭での教育」美しい言葉です。</p>
<p>・「交通安全は家庭から」の言葉の中に込められた奥の深いたくさんの事故防止策があることを、安全教室で広めて行きたいと思います。</p>
<p>・自転車に限らず、交通安全活動に関わる者の意識について改めて考えさせられました。指導員として、母親として自覚を持って活動に取り組んでいきたいと思います。</p>
<p>・自転車の事故防止のためのルール、現状道路交通法、自転車事故で問われる責任等、多岐にわたり学ぶことができました。今後の活動(勉強会及び交通教室)に利用させていただきます。</p>
<p>・講話有りがありがとうございました。熱のこもった話でした。私は68才になりますが、私の人生色々な体験と人生の中で涙は出さない時分です。指導員の自覚はもってやってるつもりでした。いっそう力を出していくつもりです。涙ができました。</p>
<p>・大変感銘を受けた講義でありました。もう少しお時間があつたらな～と少々残念です。</p>
<p>・事例を多くとりいれてお話して下さったので、とてもわかりやすく良かったです。</p>
<p>・学校の元先生らしく、現実にあった事故車の事例を取り入れた話し方、非常に感動・感銘しました。本当に「命」は大切な事です!</p>
<p>・非常に役に立ちました。伝える側がしっかり根拠を理解していなければならぬと改めて実感しました。</p>
<p>・命の尊さを再認識しました。</p>
<p>・図を示し数値で示し、こまかく理解しやすく解説を頂きました。私達が命を守る大切な仕事をしている事をあらためて認識し、以上に勉強をする必要を強く感じました。感謝。</p>
<p>・ポイントをおさえた非常に分かりやすい内容でした。とても心に残る内容ばかりで、今ちょうど中高生向けに自転車教室の話を作っているのでぜひ参考にします。</p>
<p>・自転車教育の大切さが理解できた。教育は家庭から(生活習慣)</p>
<p>・命にかかわる仕事であることを再確認しました。</p>
<p>・最後の「命を守るための教育をし続けて欲しい」というお話を聞いて心を打たれました。たった1回の過ちが全てを失うという話をして行きたいと思います。</p>
<p>・中高生への効果的な自転車運転の指導に当たることができると思いました。将来の夢をたってしまう可能性をしっかり伝えていけたらと思います。</p>
<p>・自転車の事故防止について、ヘルメット義務化している県や地域、保険についてなども知ることができたので、自分の地区でも何か良い取り組みはないか考えていきたいと思いました。</p>
<p>・自転車指導の中で加害者になった場合の責任について、もっと話をすべきだと感じました。又、交通安全も非行を起こさせないことも家庭での基本的な生活から始まることを保護者に伝えて行きたいと思います。</p>
<p>・自転車の事を再確認したり、初めて聞く事もありためになった。</p>
<p>・時間が短すぎるように思えました。もっとお話をお聞きしたかったです。とても勉強になりました。</p>
<p>・ありがとうございました。中学生から大人までの方のルール無視について課題が山積みを感じております。参考となる点を考慮しながら指導等と工夫したいと思います。</p>
<p>・「子供の命に関わる仕事」身が引き締められました。ありがとうございました。</p>
<p>・質問ではなく、実際に起きた事をわかりやすく話していただきありがとうございました。命の大切さを家庭教育から。</p>
<p>・自転車の安全教育のプロだなと思いました。自転車は免許もいらず誰でも手軽に乗り物なので自転車は便利だが、とても危険な乗り物なんだよという事をこれからも強く伝えていきたい。短い間でしたがありがとうございました。</p>

・自転車のルールについて、改めて確認することが出来ました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
・事故事例を出して話す事が大切であり、自分も同じ様な目にあわないよう、余裕を持って自転車は車の仲間という意識が大切。家庭の生活習慣もかかわってくる重要だという事がよくわかりました。
・大変な気付きを受けました。帰り次第自転車のマークを確認し、保険も確認します。

14 全体の日程についてご意見等 【*抜粋】

・2日目はボリュームがあり、午前中のグループ討議中に1度休憩が欲しかった。
・初日は移動や慣れない場所などで疲れが出て後半が余り頭に入らなかった。2日目はグループ討議はとても有意義でした。3時間がとても短く感じた。過ぎればとても早い3日間でした。
・全国から交通安全についてのプロの方が参加されているので、交流会、若しくは座談会等の時間を設けて頂きたいです。
・日程的、講座時間に関しても丁度良いと思います。
・交通安全指導上、全体的な話を聞く事が出来た。又、子ども達の自転車に関する分かりやすい内容で良かった。
・これだけ盛り沢山の内容ならば初日から午前講義としても良かったかな。もう少し的を絞っての内容の方が良かったか、難しいですね。
・全国から集まる講座なので、一日目午後開催、三日目午前終了は最良だと思う。時間にゆとりがあることは、心にもゆとりを持って良い。
・日程の中に懇親会があるといいと思いました。日帰り等で参加が難しい方もいらっしゃると思いますが…2泊3日と長い日程の中でもう少しお互いの事が知れる機会があるといいと思いました。
・初日に周囲の方と交流できる講義がありその後話をする事ができ良かった。
・グループ討議を行ったあと、だいたい時間が空いて発表の時間だったので、まだ熱が冷めないうちに発表した方がいいのではないかと思います。
・初めて参加させて頂きましたが、グループ討論で他の方たちの話を聞いたのはとても良かったと思いました。
・研修としては2泊3日ぐらいのこの日程で良いと思います。
・「交通安全」という一つの接点で集った全国からの人々です。もう少し全大会などあると交流のチャンスがあるのにね～と残念です。例えば、第一日目の夜に「交流会」など…名刺交換等でも…。
・2日目の午前中にグループ討議があり、結果の発表までの時間がとても長かった。途中講義を入れなくて続けて発表してはどうか。
・3日間しっかり勉強させてもらいました。
・詰め込み過ぎな気がします。終了時間が17時だと部屋に帰ってのんびりする時間があまりありません。この様な長いアンケートをゆっくり考えて記入する時間が取れないです。地方から来ていれば外食になるし、食事から帰ってからでは疲れて寝てしまいます。何より他県の方ともっと交流する時間が欲しいので、15時位に終了して欲しいと強く思います。
・グループ討議が少し短い感じがした。自己紹介・現状報告を1人当り5～7分程度報告。全体としての討議やまとめをやるとみなさんに聞きたい事もあまり聞けなかった。
・日程について、遠隔地ではあったが十分な配慮があった。
・カリキュラムに少しきつく感じました。
・内閣府で高齢者運転免許自主返納を働きかけている。実際事故が増加している現状からだと思います。しかし、車が運転できないと生活の質が著しく低下するため返納に踏み切れない方が多数いると思います。又、交通費等の負担も考えていただきたい。資料にだぶりがあるので、15分間という短い時間の説明を理解できませんでした。
・事例発表をどのような内容にしたらいいか具体的な説明がなかったため、事前に説明をしていただきたかったです。
・それぞれの講義ごとと勉強しなくてはならないと思ひ足りない感じです。

15 今後、講座で取り上げてほしいテーマ等 【*抜粋】

・幼児、学校、高齢者教室での寸劇の作り方。各地で行われている教室が知りたいので、たくさんの方と交流できる時間を設けて欲しいです。
・幼児・児童向けの教材作りなど。手作りしているため。色々な交通ルールに使用できたりするもの。
・事例発表、警視庁の実演など実際にしているものをもっと学びたかった。
・事例発表をもっと多くの団体の物を見たいと思いました。
・高齢者教室での高齢者の反応が知りたいです。例えば、俊敏性測定体験をして感じたことなど。(体験者も実施者も)

・会場の問題も有りますが、自転車実技等も実施されたら更にスキルアップになると思いました。理由:グループ討議を自転車を選んだので実技もほしかった気もしました。
・安全教室で使う教材のワークショップがあれば助かります。
・街頭指導のあり方について。
・中学生、高校生へ向けての交通安全教室について。ヘルメットの重要性の詳細について。
・教材づくり。手あそび、リズム体操等幼児教育に関するものがあればうれしいです。
・現状活動している課題及び問題もとり上げて欲しい。
・各交通教室の教材があれば紹介してほしい。
・私は交通指導員という肩書きが有りますが、子供達に注意するに当り警察官と同類の制服を身に付けてるから注意を聞いてくれているが、私服の時は注意する事に耳をかたむけてくれるのか自分で不安になります。対応の仕方が有りましたら講座に入れてほしい。
・高齢ドライバーの交通事故防止。
・交通法規等の研修。
・教材の作り方のヒントが欲しい。
・吉野美智先生の「効果的な話し方第二段」
・全国のユニークな交通安全教室の紹介、実演。新潟県には三流亭楽々、中野こうじたかまるという落語家や漫談家があり、楽しい笑っぱなしの交通安全教室が人気です。
・チャイルドシート着用啓発活動について。どうやったらチャイルドシート着用率を上げられるのか。又、意識の低い一般の方に効果的な方法は。
・とにかく他の自治体がどのような教室をしているか、多く知りたい。保護者のマナーの悪さ。
・それぞれの都道府県の教材紹介をしてほしい。
・子供のや高齢者の頭の体操、手あそび。
・道路標識で「止まれ」の標識が立て掛けてもあり、道路上に「止まれ」と表記されていてもなぜ止まらないのか、表記されていない交差点問題が多すぎる。
・もっと受講生同士が交流できる時間があると良い。
・高齢者への交通安全にかかわる寸劇等のストーリーの組み立て方、脚本のつくり方、気をつけなければならないことなど取り上げてほしいです。
・高齢者が免許を返納後の対応、自分から進んで返納出来る体制・制度など。
・腹話術のやり方。教室ですぐ使える、役立つ、工作物の作り方(小道具など)かきわり(後景)の描き方、作り方。
・人を集めるための具体的な方法を皆さん知りたがっているようでした。
・交通指導員の現場の活動について。例えば、イベント会場での交通整理といった現状については疑問を感じるため「交通指導員の活動はどうあるべきか」といったこと。
・広報紙の作成についてイラスト、レイアウト、教材などについて取りまとめてほしいと思います。
・救急救命、AEDの取り扱い。
・自転車の安全教育の手法及び教育に参加しない層に対する対応。
・内閣府「高齢運転者に関する講座」でもっと具体的に実施している都道府県、自治体を教えていただき具体的に進めていける実践的な方法等を講座に加えていただければ良かった。
・中高生に対する交通安全教育。
・高齢者・自転車運転者の心理、行動特性について。
・高齢者の交通安全教室について他地区はどうしているのか知りたい。
・他県の事例をもっと聞きたいです。

16 講座の実施にあたり、運営やスタッフの対応等へのご意見【*抜粋】

・御準備、手配、3日間のスムーズな運営ありがとうございました。
・宿泊、交通手段の取扱いがなかなか決まらず、手配が遅く希望とはかけはなれた。予約を取る(飛行機は)時は、1人ずつ手配してもらわないとネットで確認変更、QRコードでのる時もかなり不便を感じたので考えてほしい。Airdoではなく、メジャーな所を使ってほしい。(空港で遠く不便)余裕時間のない研修なので…。
・皆さんにとっても丁寧に対応していただきました。ありがとうございます。
・スマートな対応で良かったと思います。学ぶことが多かったです。時間の区切り方、上手でした。(後倒しになることもなかったです)
・グループ討議で使用した4階の会場ですが、電気が暗かったと思います。明るい部屋で研修したかったと思いました。
・スタッフ対応はとても良心的で良かったと思いました。
・スタッフの皆様3日間ありがとうございました。とても対応は良かったと思います。
・開催が近付いてから、宿泊施設の取り方(例:パックを原則とする等)を示されても対応できないと思う。
・とても丁寧でわかりやすかったです。ありがとうございました。
・わかりやすく、親切に対応して頂きありがとうございました。

・きめ細かな運営ありがとうございました。水、お茶の提供がありがたかった。
・とても良くしていただきました。3日間ありがとうございました。
・特にないが、スタッフの気配り、スムーズな運営方法は「プロ」ですね！
・細部わたりていねいな対応ありがとうございました。
・スタッフの方々の対応は大変良かった。
・時間の管理が良かったです。安心して受講できました。
・とても親切丁寧でした。ありがとうございました。
・鈴木様にはその都度丁寧で分かり易いアナウンスを頂きました。ありがとうございました。他の運営に携わられたスタッフの皆様にも感謝申し上げます。自Bでのグループ討議でした。人員に対し座席が多すぎたように思います。皆さんの顔がとても良かったです。
・良く動いていて好感を持ちました。
・全日程スムーズに進んだと思います。丁寧な対応ありがとうございました。おつかれさまでした。
・細やかな心づかいを感じました。ありがとうございました。
・気づかい等大変御苦労様でした。
・昨日の池田先生にお話いただいていた時「4人でご相談を」という時「他のグループにない意見を」といわれ手をあげましたが、もう1人の人にあてられたのみで私もマイクを向けてほしかったです。「他のグループにない意見でしたから…」「標識を見て止まる」という点が無かった。これは重大である。手を上げていたら全て当ててほしいです。
・受付、講義前後の説明等とても分かりやすくスムーズでした。
・案内が重複したり、旅費の支出方法を後日に知った。宿泊が会場にある事を知らせてほしかった。
・良く対応をしていただきましたが旅費分、宿泊の件で連絡が遅く購入後だったためとまどった。
・グループ討議の時のスタッフが、何も分かっていなかった。(メモ用に配布した紙を回収しようとしたので確認してもらった)同じくグループ討議の会場で、グループの声が大き過ぎたので気が散った。
・宿泊移動にまで細かに手配して頂き、地方から来た人にも分かりやすく安心して受講する事ができました。笑顔で対応して頂き3日間本当にありがとうございました。
・とても良かったです。ありがとうございました。
・大変旅費やホテルの手配等、お世話になりました。又、研修中も十分配慮いただきました。
・全ての手配をしてくださりありがとうございました。有意義な研修会に参加することが出来てよかったです。ありがとうございました。
・親切に対応して頂き、ありがとうございました。
・グループ討議会場に付いておられたスタッフの方が少々頼りない感じがしました。メモで渡された用紙を集めると言われ、少々ざわつきました。
・3日間ありがとうございました。2日目の討論で司会、発表をさせてもらえる機会を頂けた事でこれからの自分自身の自信につなげられるよう機会となった。丁寧な対応ありがとうございました。

17 その他、講座全般にかかわるご意見・ご感想・ご要望等【*抜粋】

・どの講義も業務に必要な内容でしたので意義のある3日間でした。また参加したいのと、このような仕事をさせている方、経験年数を問わず参加を飲めたい講習会でした。
・Airdo、行き無事飛行機は飛びましたが、25分遅れました。自己手配を決まった段階ですぐに出来ればよかった。行きも帰りも飛行機時間を選びたい。チンの音はちがうほうが良い。
・東京に来るのが大変な北海道、東北、九州、沖縄でこういった研修を開催してほしい。より多くの人に参加して技能を高められるようにしてほしい。
・グループ討議で他県の皆さんの意見を沢山頂戴でき、持ち帰るお土産が増えたことは大変嬉しく思います。事例発表の資料も全てであると良かったです。
・来た方のできる範囲(行政でないとか指導員だとか)が、幅がありそこに質問のしづらさなど(?)があるのかなと感じました。
・幼児に対する話し方や安全教室での進め方等具体的に説明か寸劇等有れば良かったと思いました。(事例発表?)
・どの講座も全て自分に関わる内容で、これからの交通安全教室の指導に役立てていけるものばかりでした。早速今回学んだことを同僚に伝え、交通指導がもっと充実したものになるよう頑張ります。講座に参加でき本当に良かったです。ありがとうございました。
・様々なカテゴリーの専門知識を学習する事が出来、大変有意義な三日間になりました。また、様々な年代の方と接する業務である為、心理学の先生からの講義の時間を長くって頂けるとありがたいです。
・事例発表は実際に指導員さんが行っているものなので大変勉強になった。
・グループ討議の中で隣からの声が入り聞きとりにくい時があった。仕切を丁寧にして雑音が入らないようにして欲しかった。
・最後の石井先生の講座のメに交通専門員としての自覚「生命に関わる仕事をしている」心に残りました。

・紙芝居についてですが、幼稚園児には対応できますが小学校にどうかなって思いました。その他については私自身勉強になりました。
・交通安全とは命にかかわるとても大変な仕事だということを再認識できました。慣れることなく、やっていこうと思います。ありがとうございました。
・宿泊施設の斡旋、できればアルカディア市ヶ谷に宿泊したかった。せっかくの機会なので初日か二日目の夜に懇親会を希望性でもあれば良いかなと思いました。
・展示品や手作り小道具等、より多く出して欲しい。
・地域によって取り組み方がかなり違うことにおどろきました。今回学んだことを自分の地区でも実施していけたらと思いました。
・今回参加することで、学んだことが多くこの知識を実践していきたい。他県の事例発表は持ちかえってすぐ活用できることが多く、もっと多くの県について聞きたいと思った。
・事例発表をもっと増やしてほしいです。(ブースみたいに分けておいてもいい)
・すごく勉強になりました。全国の指導員さん達の頑張り(教材作りや工夫など)が伝わってきました。私も色々考え、地域の交通安全を教室等でたくさん伝えられるように頑張ろうと思いました。
・グループ討議の議論から発表まで、一括りでまとめてはどうかと思う。
・事例発表では皆さん工夫していらっしゃるのがすごくわかり刺激を頂きました、とともに自分たちがまだまだだなあと、これからもっと成長していけたらと思いました。
・私みたいに苗字が素直に読めない人の分は名札にふりがなを付けてほしい。
・他府県の方と連絡のあえることが出来なくて残念。交流の場をもうけてほしかった。
・3日間の講座は受講する前は少し長いのではと思っていましたが、実際3日間受講をしてすぐに教室に取り入れられるものや、自分の意識をかえるようなものが数多くあり、とても有意義な3日間でした。ありがとうございました。
・交通安全教室担当になり、年数が浅い為たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
・全国各地から来られているので、情報交換ができる機会、場、時間などがあればいいなと思いました。全国の方々と交流する機会はとても大切だなと思いました。またこの講座で教えていただいたことを今後の活動に生かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。
・開催場所を西日本と東日本ぐらいに分けてほしい。移動時間がかかりゆっくり受講できない。
・私は交通安全母の会に所属しています。今回の講習は指導者育成講座で私には場違いだった様でしたが、でも講義はとても良かったと思えます。視野が広がった感じがしています。※特に事例発表
・研修日程が短過ぎると思えます。出来れば5日間集中して余裕のある日程で行っていただく事を強く希望します。国会議事堂など、東京見物の時間が欲しいです。あとアンケートを記入する時間を取って欲しい。
・充実した3日間でした。一つつけ加えるとすれば、座席をランダムに設定して頂けると色んな地方との交流ができると思えます。単独で来たので話しかけにくい雰囲気もありました。
・今日も中学生の自転車と老人がぶつかり人が亡くなっている。人ごとでなく、自分又子ども達にも自転車のマナーを教えなくてはと、つくづく思う。石井先生の講座は現実的で賠償や子供の命の大切さなどひしひしと交通安全指導の大切さを感じた。
・他の地区、県の教材などを参考にすることができたらいいなと思いました。(手作りの教材)事例発表以外にもたくさんの地区がどんな教材を作っているのか見て参考にしたいと思いました。
・教材や交通教室の様子などの写真を提出し、それをまとめた教材集などがあると教材づくりの参考になるのでは…と思えます。
・2日目のグループ発表内容の資料もほしいと思いました。(選択したグループの内容しかわからないので)。事例発表者の名前(内容)も、しおりに書いていただくとありがたいです。又、発表された方の資料もよければいただきかったです。
・使ってよい無料の教材の紹介が最後にお知らせであってよかった。
・全国区なので色々の地域の話をお聞きが出来て、とても良かった。このような機会をいただいてありがとうございました。
・全国の方々の交通安全教育はそれぞれの特性がでていて参考になりました。職場に持ち帰って共有したいと思えます。
・日本全国の交通安全の教育者のみなさまのお話を直接聞くことができるグループ討議がとても勉強になり、励みになりました。また専門分野の講師の方々のお話も今後の取り組みへの参考になりました。学んだことを糧に交通安全活動に励みます。
・どの講座もためになるものばかりだったので今後の交通教室で活かしていきたいです。
・他府県の方たちの効果的な安全教育のやり方や、専門の先生による効果的なすすめ方を学習でき、参加することができて本当に良かったと思えます。
・このような講習を受ける事が初めてなので、どの様な事をするのか不安だったのですがとても勉強になりました。これからの事に生かしていける様にしていきたいと思えます。ありがとうございました。